

社会福祉法人仁至会 事業報告書

1. 法人運営

(1) 理事会

日 時	審 議 事 項
R05. 05. 31	<ul style="list-style-type: none">・ 令和 4 年度事業報告及び決算報告について・ 令和 5 年度第 1 次補正予算（案）について・ 理事及び監事の選任候補者（案）の提案について・ 定時評議員会の開催日時及び場所、議題等について
R05. 06. 19	<ul style="list-style-type: none">・ 理事長の選定について・ 常務理事の選定について・ 苦情解決第三者委員の選任（案）について
R05. 11. 29	<ul style="list-style-type: none">・ 令和 4 年度決算報告訂正（案）について・ 令和 5 年度第 2 次補正予算（案）について・ 経理規程の一部改正（案）について・ 評議員会の開催日時及び場所、議題等について
R06. 03. 13	<ul style="list-style-type: none">・ 令和 5 年度第 3 次補正予算（案）について・ 令和 6 年度事業計画（案）及び予算（案）について・ 重要な役割を担う職員の選任（案）について・ 理事（常務理事）の選任候補者（案）の提案について・ 評議員会の開催日時及び場所、議題等について

(2) 評議員会

日 時	審 議 事 項
R05. 06. 19	<ul style="list-style-type: none">・ 令和 4 年度事業報告及び決算報告について・ 令和 5 年度第 1 次補正予算（案）について・ 理事及び監事の選任候補者（案）について
R05. 12. 13	<ul style="list-style-type: none">・ 令和 4 年度決算報告訂正（案）について・ 令和 5 年度第 2 次補正予算（案）について
R06. 03. 27	<ul style="list-style-type: none">・ 令和 5 年度第 3 次補正予算（案）について・ 令和 6 年度事業計画（案）及び予算（案）について・ 理事の選任候補者（案）について

(3) 監事監査

監査名	日 時	実 施 内 容
年次監査	R05. 5. 12	・ 令和 4 年度事業報告、決算報告の検査
定例監査	R05. 08. 21	・ 事業進捗状況検査、月次出納検査
	R05. 11. 10	〃
	R06. 02. 22	〃

(4) その他

行事名	日 時	人数等	実 施 内 容
辞令交付式	R05. 04. 03	7 名	新規採用職員並びに昇格職員等に辞令交付を行った。
永年勤続職員表彰式	R05. 04. 03	4 名	勤続期間が 20 年（2 名）、10 年（2 名）を経過した職員に表彰状及び記念品を授与した。
新規採用職員研修	R05. 04. 03	13 名	新規採用職員（前年度中途採用職員も含む）に法人の成り立ちや法人の理念、社会人としての基本姿勢、職業倫理等について、法人内職員が講師となり基礎的な研修を行った。
知的財産権セミナー	R06. 02. 13	22 名	国立大学法人名古屋工業大学産学官金連携機構特任教授山田和正氏を講師に迎えて、著作権を中心に必要な知識や留意点を学んだ。
人権研修会	R06. 03. 22	20 名	名古屋法務局半田支局総務課長引土慎吾氏を講師に迎えて、職員へのパワーハラスメントの認識を高め、適切な指導・助言のあり方を学んだ。

2. 法人の取り組み

(1) 利用者の人権を尊重し、安全安心な介護・福祉サービスの提供

虐待予防や接遇研修等を通して人権や権利擁護への認識を深めると共に、自己申告書等によって自らの支援の振り返りを行った。

(2) 公益的な取組の推進

認知症カフェや地域住民向けの介護予防教室の開催と併せ、大府市より認知症伴走型支援事業を受託し実施した。

(3) 安定的な業務運営と財政基盤の確立

法人全体で運営方針の共有化を図った。BCP 作成と併せて災害時の拠点間における協力体制の強化を図った。また毎月の常務理事会で各拠点の経営状況等を多角的に検討した。

(4) 環境に配慮した業務運営

給与明細書や年末調整の電子化によるペーパーレス化、照明設備の LED 化による

省エネ化に取り組んだ。

3. 実施事業

第二種社会福祉事業

- (1) 介護老人保健施設ルミナス大府（ルミナス大府拠点）
 - ・介護老人保健施設事業（定員 100 名）
 - ・短期入所療養介護事業（空床利用）
 - ・通所リハビリテーション事業（定員 50 名）
 - ・訪問リハビリテーション事業
 - ・認知症対応型共同生活介護事業（定員 9 名）

- (2) 認知症介護研究・研修大府センター（大府センター拠点）
 - ・認知症介護に関する研究事業
 - ・認知症介護に関する研修事業
 - ・認知症介護に関する啓発活動、情報発信、連携活動
 - ・若年性認知症に対する支援事業
 - ・愛知県身体拘束廃止推進事業

- (3) 障害者福祉施設サンサン大府（サンサン大府拠点）
 - ・就労継続支援（B 型）事業（定員 39 名）

4. 実施状況

附属明細書のとおり

社会福祉法人仁至会 事業報告書の附属明細書

1. ルミナス大府拠点

1. 総括

(1) ルミナス大府拠点の運営状況

- ①介護老人保健施設ルミナス大府は目標入所率 95%に対して実績は 94.81%でした。4月、1月、2月は91%~93%台と落ち込みましたが、7月~9月、3月は95%~98%で推移しました。介護老人保健施設の役割である在宅支援機能を一定の基準で満たしたため、年間を通して在宅復帰・在宅療養支援機能加算を算定することができました。
- ②通所リハビリは目標1日平均32人に対して32.6人でした。内訳は1日コース27.5人、短時間コース5.1人でした。
- ③訪問リハビリは5月から再開しております。通所リハビリのリハビリ職員が兼務しているため、少人数から開始しております。利用人数4人、総回数248回でした。
- ④グループホームの利用率は99.8%でした。退所は4月1人、8月、11月に体調不良者が1人出ましたが、併設の老人保健施設、協力医療機関と連携し長期間部屋を開けることはありませんでした。

(2) 各種マニュアルの見直しを必要に応じて行いました。新規採用者指導マニュアル及び新人職員が安心して業務に取り組めるように業務手順マニュアルの見直しを行いました。

(3) 施設教育を実施しました。

- ①職員研修として認知症、権利擁護、感染症、事故防止、口腔ケア、食品衛生、新人職員研修等、合計18回実施しました。
- ②無資格の職員に対する受講支援を行いました。認知症介護基礎研修（eラーニング）7名受講しました。

(4) 就職支援サイトと契約し新卒学生の採用を強化しております。3月に解禁される就職活動に備えて秋のインターンシップを実施しました。また、実習生、学生ボランティアの受け入れを再開しました。

(5) 事故・感染に関するリスクマネジメントに取り組みました。

- ①転倒事故の発生数は、昨年度44件、5年度は74件でした。適宜カンファレンスを開催し再発防止に努めました。
- ②感染症対策は引き続き継続し、食堂のスクール形式、換気、食事時のフェイスシールド、消毒液ポーチを配布し感染対策を徹底しました。適宜ステーション内の清掃・

消毒に努めました。

- ③大府市内の訪問歯科による訪問歯科診察が週 3 回行われています。嚥下機能評価、食形態の検討、口腔ケアの実施及び職員に対する助言が行われています。肺炎で入院した利用者は令和 3 年 11 件、4 年 10 件、5 年 4 件でした。
- (6) 低栄養状態 (ALB 3.0 未満) のリスクがある入所者を把握し栄養計画に反映させました。栄養補助食品の提供により 55%の方が改善しました。
- (7) 地域貢献事業では「認知症伴走型相談支援事業」、「認知症カフェくちなし」、「介護予防教室かがやき塾」、「地域サロン健康体操」を実施しました。
 - ①認知症伴走型相談支援事業「認知症なんでも相談室」を大府市の委託事業として実施しました。営業日は毎週月、水、金曜日の午後 13 時 30 分～16 時 30 分、地域で認知症介護をする家族に対する助言等を行いました。
 - ②認知症カフェくちなしを毎月 1 回実施しました。開催方法はコロナ禍以前の形式に戻し、対面形式で実施しました。参加人数は昨年度と比較して 125 人増加し 450 人でした。
 - ③介護予防教室かがやき塾は 10 月～12 月にかけて計 5 回コースで実施しました。延べ人数 133 人の地域の方々にご参加いただきました。
- (8) 各種委員会を毎月開催し質の高いサービス提供に努めました。
 - ①ICT 委員会では国立長寿医療研究センターと伴走支援業者「TRAPE」と連携し厚生労働省の生産性向上モデル事業に取り組みました。
 - ②BCP 委員会では大規模な自然災害に備え、業務継続のために平時からの準備体制の整備及び発生した際の利用者と職員の安全確保と被害を最小限にとどめて事業を継続することを目的とし、BCP (自然災害) を作成しました。
 - ③新型コロナウイルス感染症に対しては感染管理委員会を毎月に加え、適宜開催し感染対策を徹底するとともに施設独自の感染マニュアルを基準として取り組み、徹底した感染対策を実施しました。
- (9) 家族への「満足度アンケート」の結果、「普通以上」の評価 90%以上は、今年度も到達しました。アンケート結果に対するフィードバックの掲示も行いました。要望が多く見られた面会につきましては 5 月から面会時間と面会枠を増やし実施しました。
- (10) 薬剤師と連携してポリファーマシーの改善に向けて取り組んでいます。新規利用者の内、2 回目までの処方を受けた方 77 名の入所時平均処方薬剤数は 6.07 剤でしたが、2 回目の平均処方薬剤数は 5.94 剤でした。利用者全体の平均処方薬剤数は 4.7 剤でした。
- (11) 広報活動としてホームページ及び施設広報「ルミナス通信」に加えて、新たにインスタグラムを開設し、施設の取り組みを地域へ発信しております。
- (12) 施設設備の装備、更新計画を策定し実施に向けて進めました。5 年度は 3 階フロア

の床張り替え工事と一部給湯装置の更新を実施しました。

- (13) 法人内の認知症介護大府センター長に合同カンファレンスに参加いただき、認知症の専門的な立場からアドバイスをいただいております。

2. 新型コロナウイルス感染症対策

(1) 感染管理委員会

施設の感染対策活動の中核的な役割として感染管理委員会を設置しました。日常的な感染対策から発生時の対応及び施設の感染対策に対する問題点を把握し改善点を講じるなど施設の感染対策を早期に検討し決定しました。

(2) 感染症対策マニュアルの改訂

感染症を総合的に分析し利用者及び職員の感染対策、発生時の対応、連絡体制などを部署毎に策定し対策全般の対処方針をまとめました。事態の変化に伴い適宜改訂を行いました。

(3) 感染状況

8月に老人保健施設の職員が感染しましたが、感染が拡大することはありませんでした。

(4) ワクチン接種

行政機関の協力により6月～9月に6回目、7回目のワクチン接種を施設内で実施しました。

(5) 検査

昨年度から継続して愛知県による無料抗原スクリーニング検査を毎週2回実施しました。令和5年度で無料スクリーニング検査は終了しましたので、今後は必要に応じて受検をしていきます。

(6) 近隣施設、医療機関との情報共有

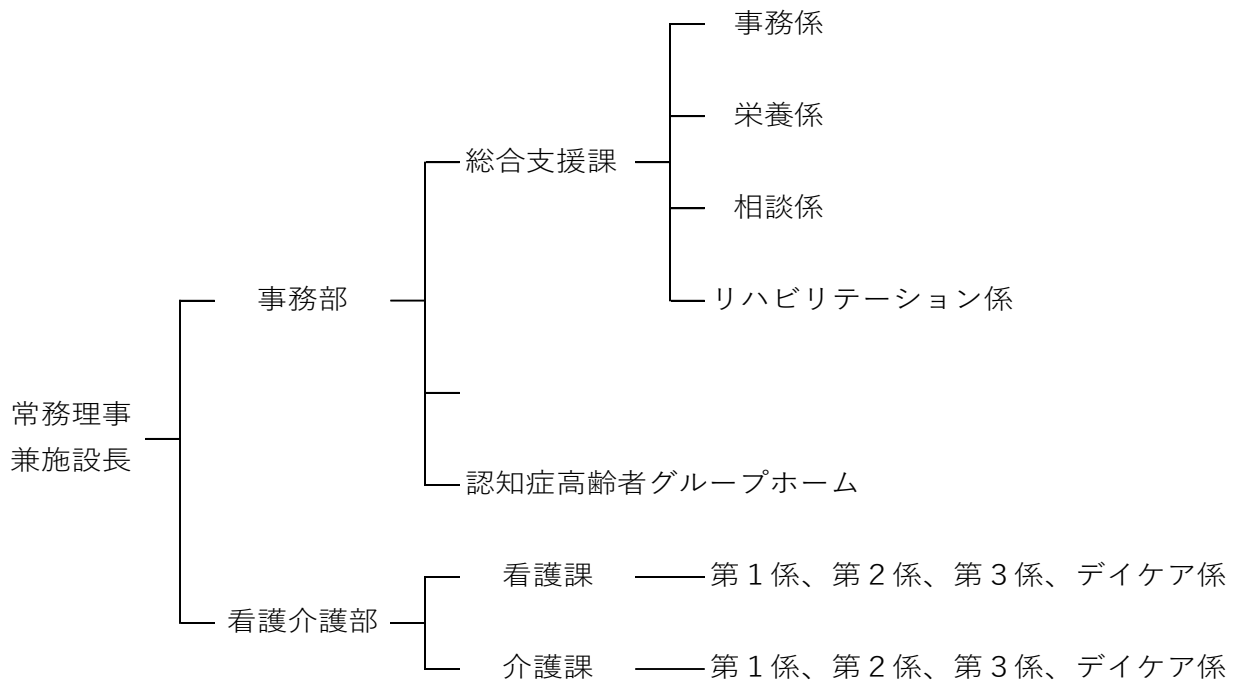
近隣施設と常に情報交換を行い感染予防、発生時の対応などを共有しました。多様な課題と一緒に取り組めるように近隣施設間のネットワークを構築し検討を行ってきました。また情報を早期にスタッフ間で共有し早期の感染対策に努めました。

(7) スタッフ間の連絡体制構築

中部電力が運営している「ビジエネ連絡網」を活用し迅速にスタッフ連絡を実施しました。早期の情報共有、早期に感染対策に努めることができました。

3. 組織（介護老人保健施設及び併設施設）

令和6年3月31日現在



4. 職員実数

令和6年3月31日現在

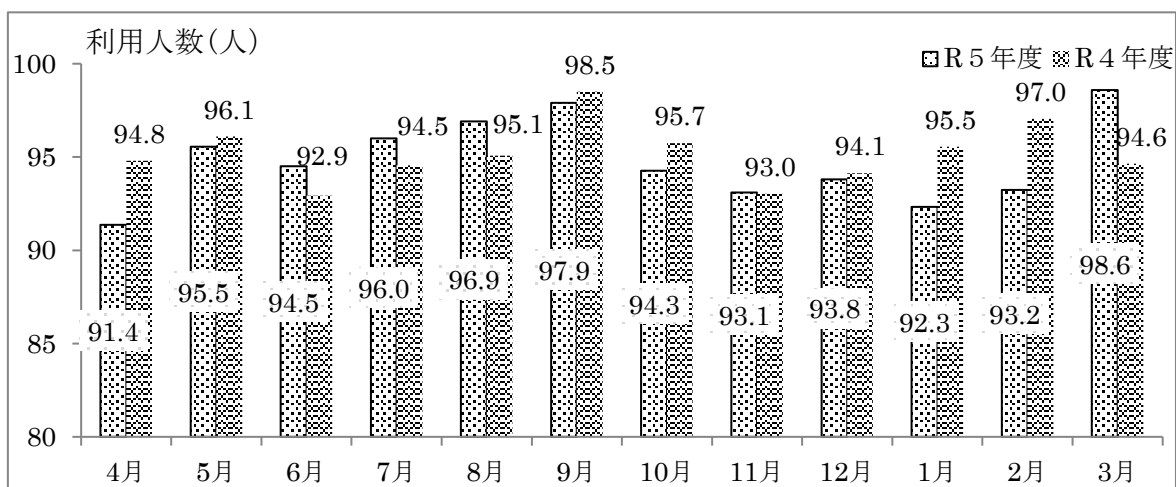
	介護老人保健施設 (通所リハビリテーション・ 訪問リハビリテーションを含む)		認知症高齢者 グループホーム	
	常勤換算数	開設基準	常勤換算数	開設基準
施設長（管理者）	1	1	1	1
薬剤師	0.35	0.33		
看護職員	14.6	11	0.8	3
介護職員	47.75	27	4.6	
支援相談員	3.50	1		
作業・理学療法士	10.5	3		
介護支援専門員	1.00	1	0.1	実数
管理栄養士	2.00	1		
事務職員	1.40	実数		
施設管理員	0.45	実数		
計	82.55	45.33	6.5	4

5. 介護老人保健施設ルミナス大府

(1) 各サービス利用状況

①長期入所 利用状況

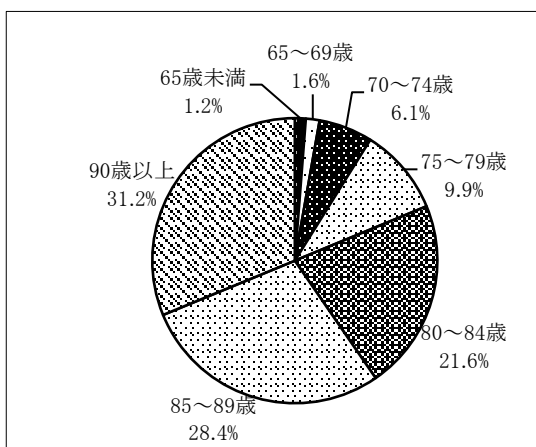
ア. 月別利用者数 年間平均 94.81人/月 (4年度 95.16人/月)



年間平均利用者数は94.81人/月でした。昨年度と比較して0.35人/月減少しました。4月は入院者と特養・有料老人ホームへの入所が重なった影響で91人台、1月～2月はインフルエンザにより92～93人台と落ち込みましたが、7月～9月、3月は95～98人以上で推移しました。満床の日が9月で3日、3月で7日間と合計10日ありました。平均利用日数は458.3日(令和6年3月31日)でした。

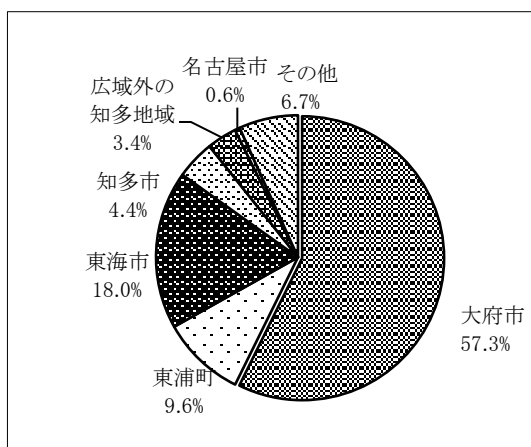
イ. 年齢別利用割合

平均86.4歳(4年度86.5歳)



全体の分布は4年度と比較してほぼ変化がありませんでした。前年比平均年齢0.1歳下降、85歳以上の割合が1.1%下降し、その中で減少の要因となっているのが90歳以上の割合でした(13%減)。

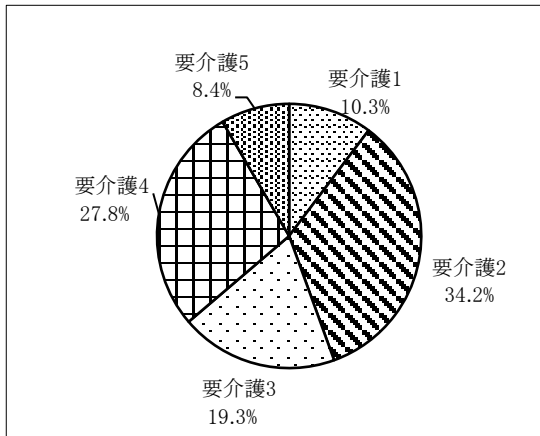
ウ. 住所地別利用割合



大府市からの入所者が半数以上を占めています。次に東海市18.0%、東浦町9.6%と続いています。全体の分布は4年度と比較して変化は見られませんでした。

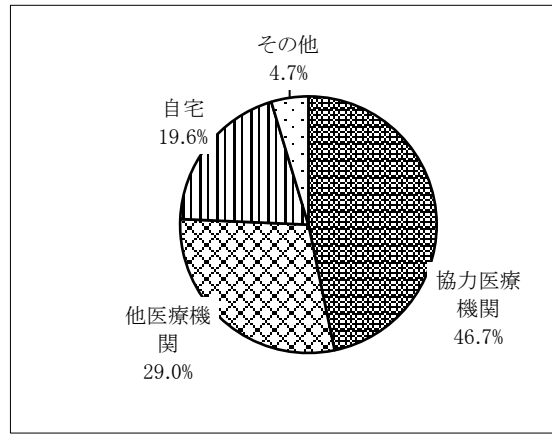
エ. 介護度別利用割合

平均介護度 2.9 (4年度 2.9)



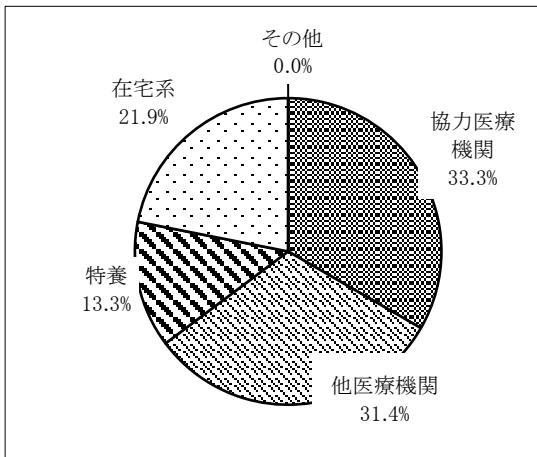
平均介護度は2.9でした。4年度と比較して変化は見られませんでした。要介護4以上の方が3割以上を占めています。

オ. 入所経路別利用割合



医療機関からの入所が約8割弱を占めています。去年と比較して自宅の割合が約8%増加しています。

カ. 退所経路別利用割合

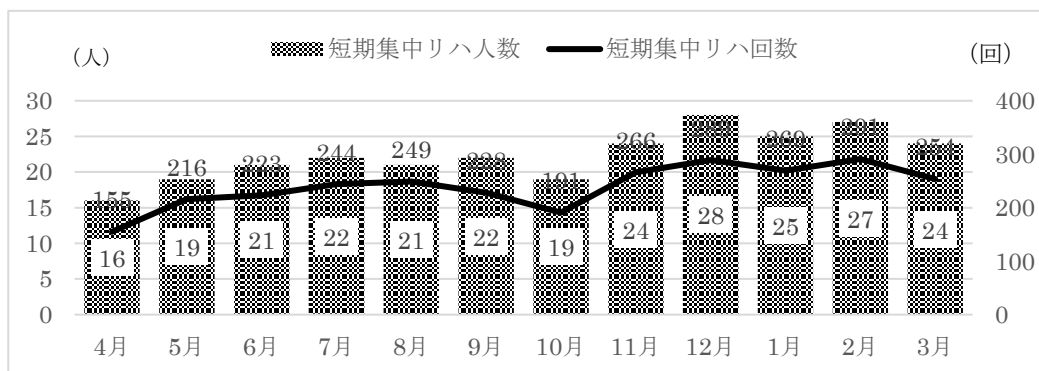


医療機関への退所が最も多く約6割以上を占めています。特別養護老人ホーム13.3%、有料老人ホームを含めた在宅系への退所は21.9%になっています。他医療機関への退所が1.1%増加、協力医療機関への退所が4.9%減少しています。急性期の疾患以外での加療目的が多くなったことが要因として考えられます。

キ. 長期入所 短期集中リハビリ加算

延べ実施回数 2875 人、回 (4年度 1994 回)

月平均人数 22.3 人 (4年度 16.1 人) 月平均回数 239.5 回 (4年度 193 回)

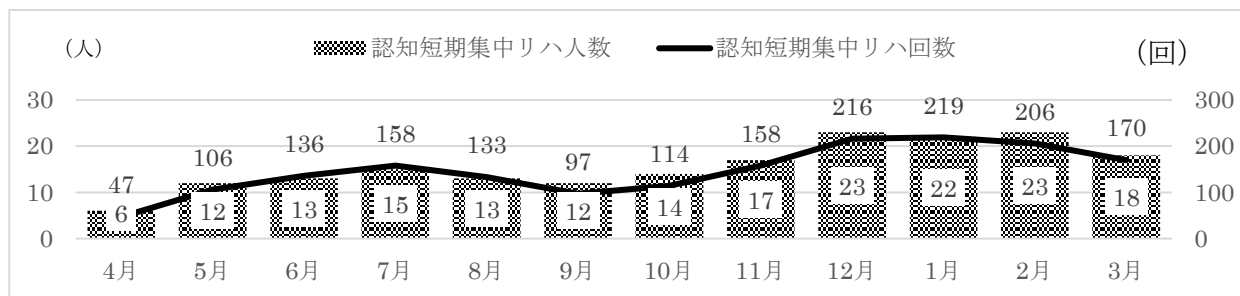


短期集中リハビリ加算の実施数は月平均 22.3 人、月平均回数 239.5 回でした。対象となる利用者を自宅復帰の可能性の有無に関わらず加算対象を広げ、かつ自宅復帰の可能性のある対象者には週 4-5 回を実施しました。今年度は昨年度と比べ対象者となる利用者が多く大幅に増加しました。

ク. 長期入所者 認知症短期集中リハビリ加算

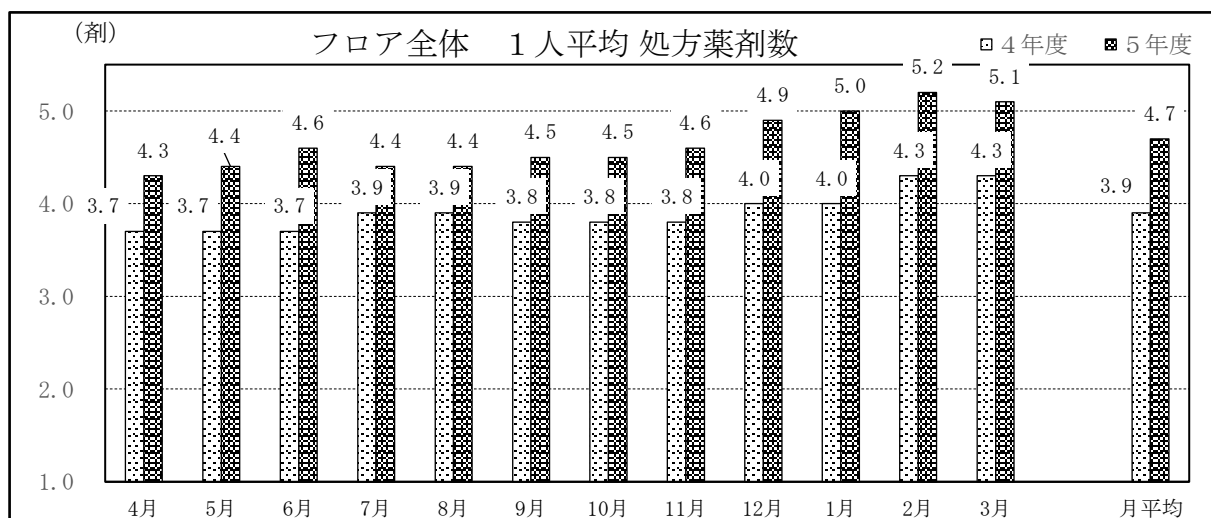
延べ実施回数 1760 回 (4 年度 1175 回)

月平均人数 15.7 人 (4 年度 9.8 人) 月平均回数 146.6 回 (4 年度 97.9 回)



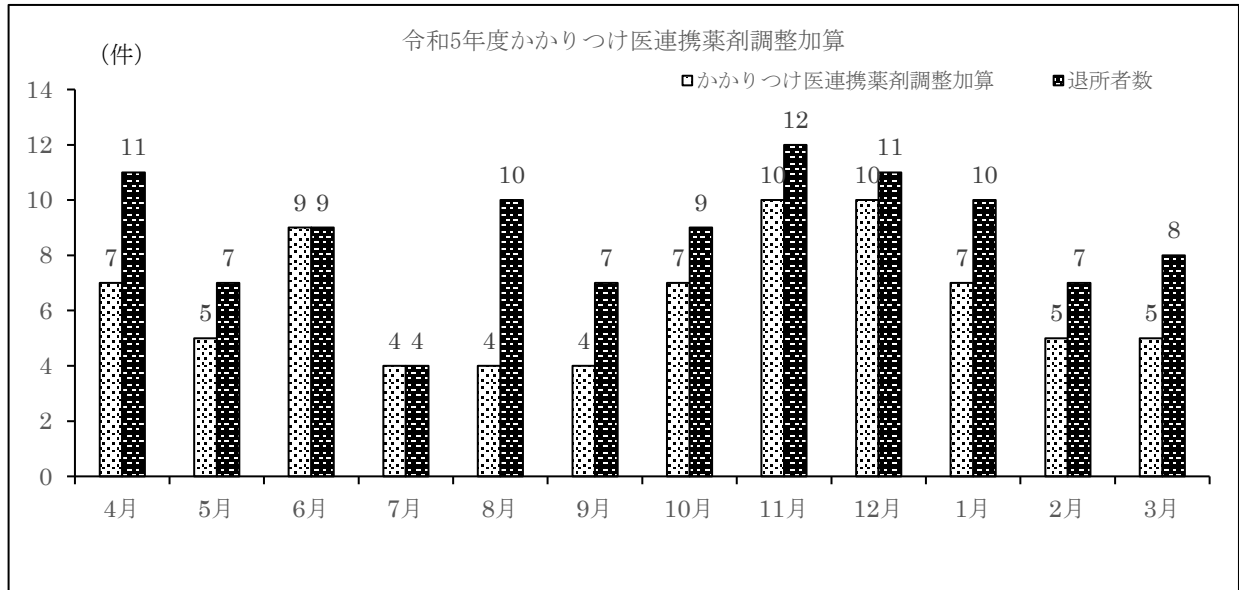
認知症短期集中リハビリ加算の実施数は、月平均 15.7 人、月平均回数 146.6 回でした。今年度は昨年度と比べて対象となる利用者が多く大幅に増加しました。

ケ. 薬剤調整



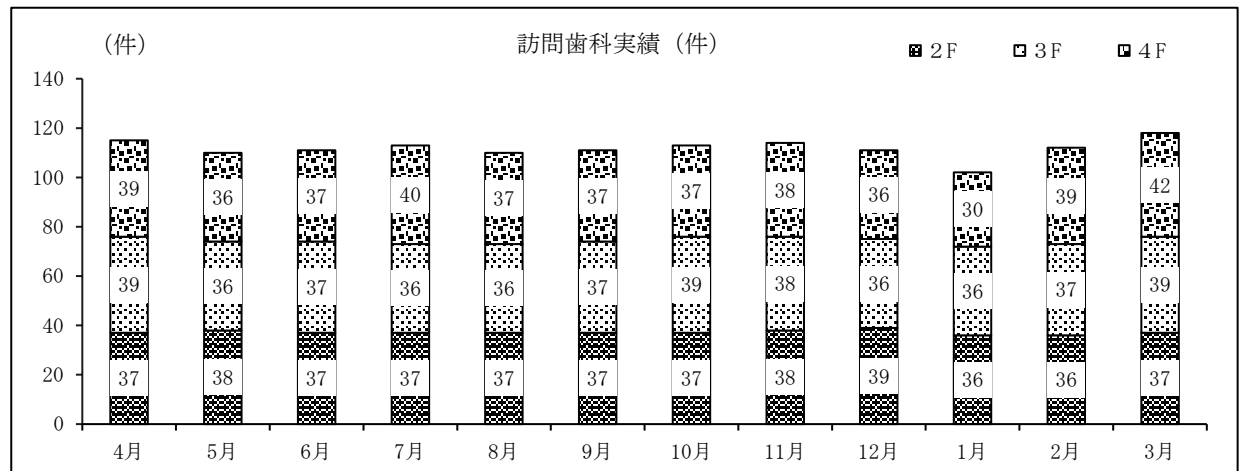
昨年度の 1 人あたりの平均処方薬剤数 3.9 剤でしたが、今年度は平均 4.7 剤でした。薬剤師と連携してポリファーマシーに取り組んでいます。昨年度の月平均処方回数は 69.9 回でしたが、今年度は 73.5 回でした。

コ. かかりつけ医連携薬剤調整加算（Ⅰ～Ⅲ）



かかりつけ医連携薬剤調整加算は退所時に1回算定するものであり、退所者数105件のうち77件算定と昨年度より11件増加しています。算定できなかったケースに検査入院や数日の短期入院、数日内の入所期間があげられます。

サ. 訪問歯科実績



大府市内のつばめ訪問歯科による往診が週3回行われています。嚥下機能評価は週1回のペースで実施されています。食事形態と食事摂取の見直し、口腔ケア、嚥下訓練等について指導を受けて肺炎防止に向けて取り組んでいます。

②短期入所 利用状況

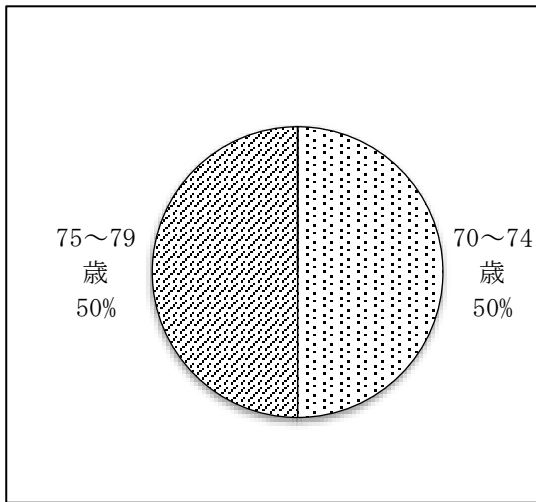
ア. 利用実人数5人・延利用日数34日

(4年度：利用実人数4人・延べ利用日数14日)

令和3年5月からショートステイは空床利用としました。5人の利用者が合計34日間ご利用されました。内訳は介護者の入院等緊急の要請で自宅から3人、地域包括ケア病棟より2人でした。

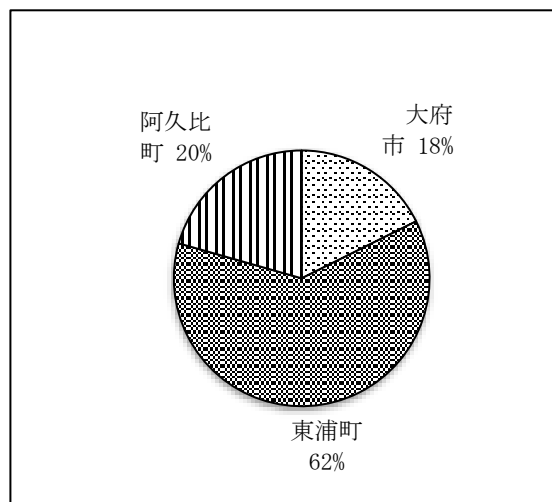
イ. 年齢別利用割合

平均 75.4 歳 (4 年度 85.6 歳)



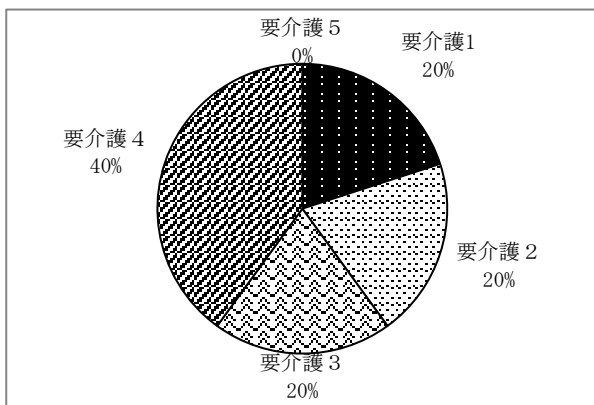
平均年齢は昨年度と比較して約 10 歳低下しています。

ウ. 住所地別利用割合



東浦町在住の方が 6 割以上を占めています。

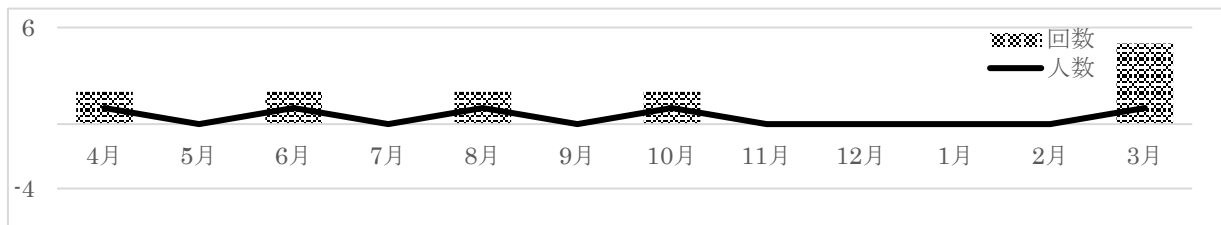
エ. 介護度別利用割合 平均 2.5 (4 年度 3.5)



平均介護度 2.5 でした。昨年度と比較して 1.0 軽度化しています。

オ. 短期入所 個別リハビリ加算 実施人数と実施回数

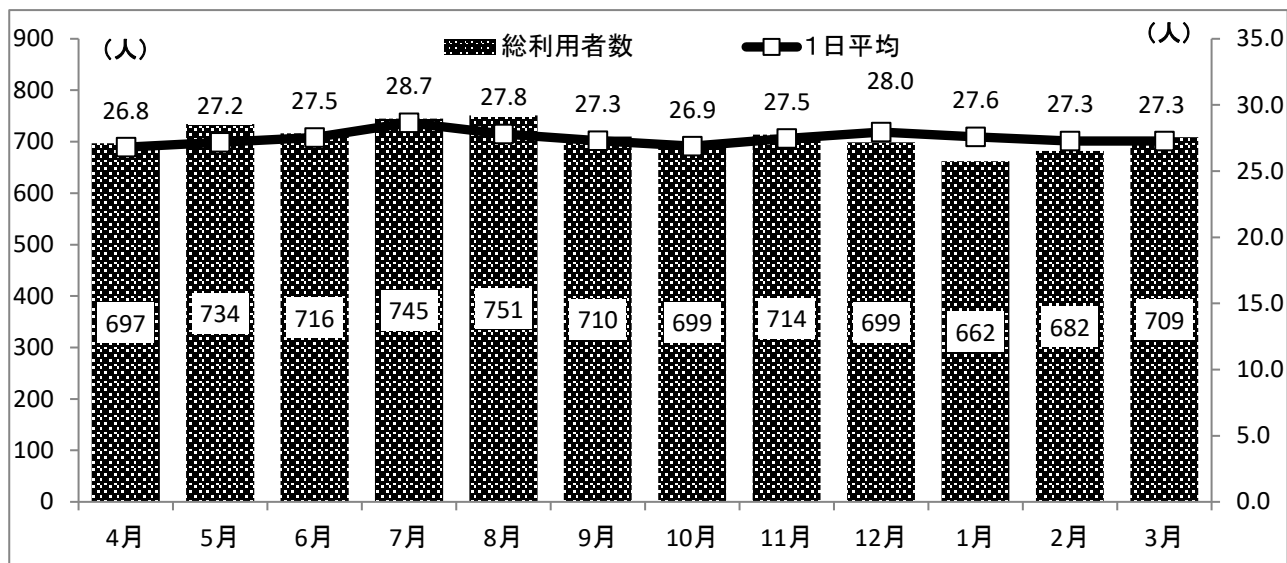
今年度の短期入所の個別リハビリは、年間実施 5 人、総数 13 回でした。



令和 5 年に短期入所され個別リハビリを希望された利用者は 5 人で、居宅の介護支援専門員のケアプラン上で設定されている予定回数を実施しました。

③通所リハビリ 利用状況

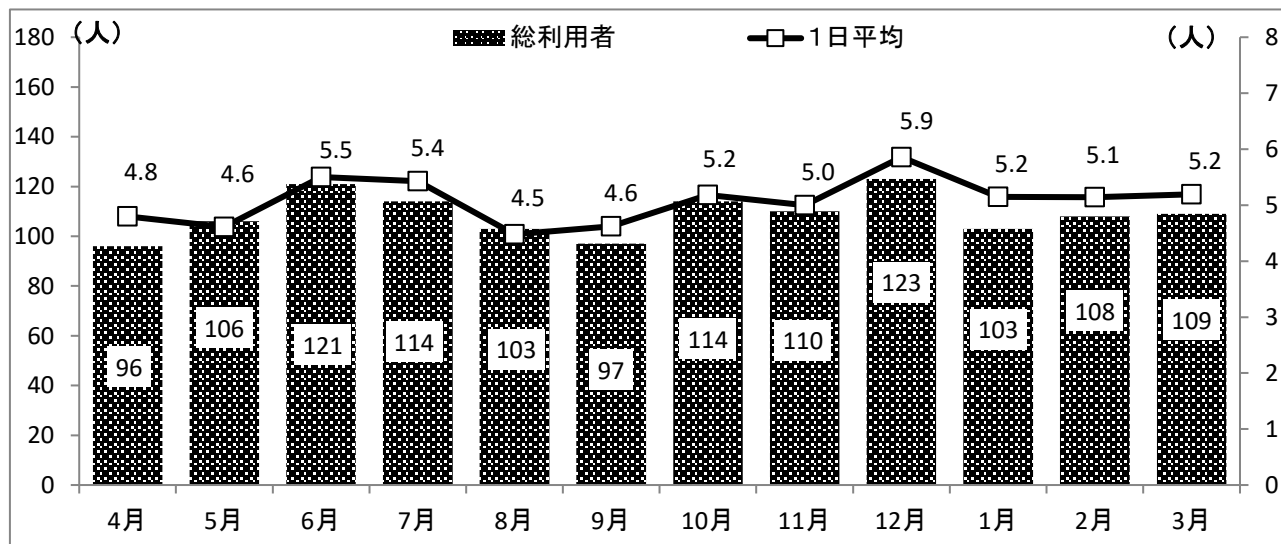
ア. 一日コース (6～7 時間) 平均 27.5 人/日 (4 年度 : 25.2 人)



1日平均 27.5 人の方が利用されました。昨年と比較して 2.3 人増加しました。今年度は 18 人の利用者がコロナ陽性となりましたが、感染拡大することなく、通常通り営業を継続することができました。

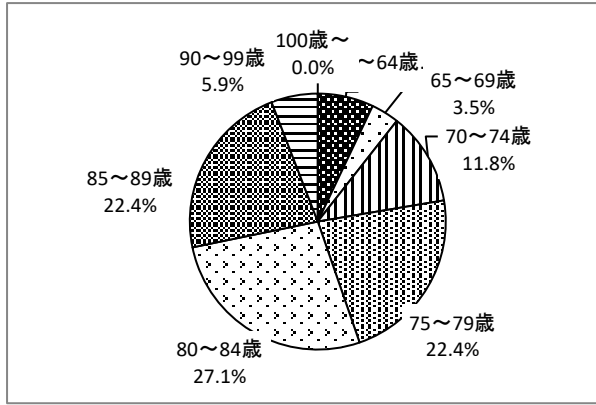
利用枠を増やしたことで、利用者が入院された場合等、しばらく欠席が続いても利用人数が落ちないように取り組みました。

イ. 短時間コース (1～2 時間、2～3 時間) 平均 5.1 人/日 (4 年度 : 4.7 人)



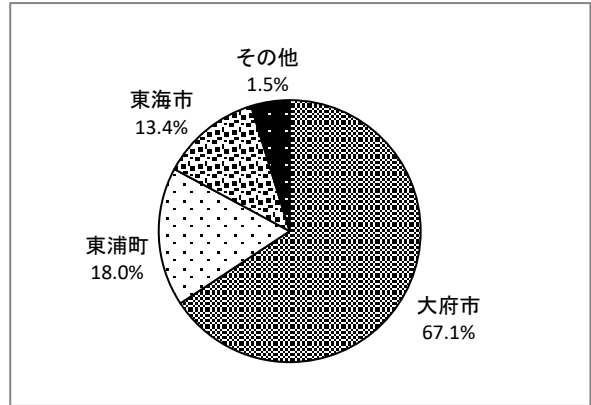
短時間コースは 1 日平均 5.1 人でした。昨年と比較して 0.4 人増加しました。9 時 30 分～11 時、11 時～13 時 10 分、14 時～16 時 10 分の 3 コースで営業していますが、送迎人員の確保が難しい為、11 時～13 時 10 分のコースは縮小予定です。

ウ. 年齢別利用割合 (4年度 80.92歳)



昨年度は平均81.07歳と利用者の年齢層に昨年との大きな違いは見られません。

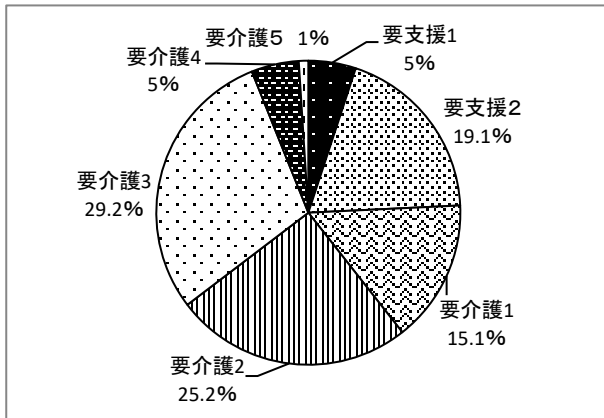
エ. 住所地別利用割合



全体の約9割が大府市と東浦町となっています。

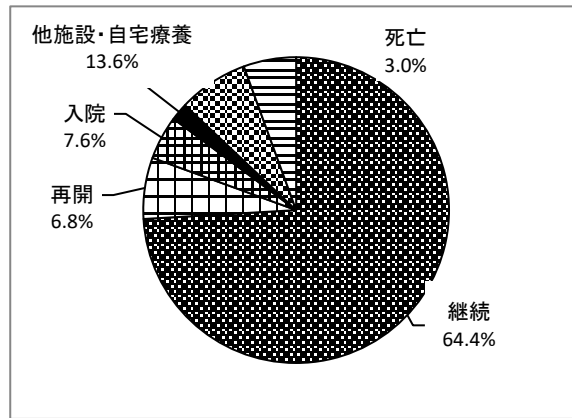
オ. 介護度別利用割合

平均介護度 1.89 (4年度 1.86)



平均介護度は1.89でした。

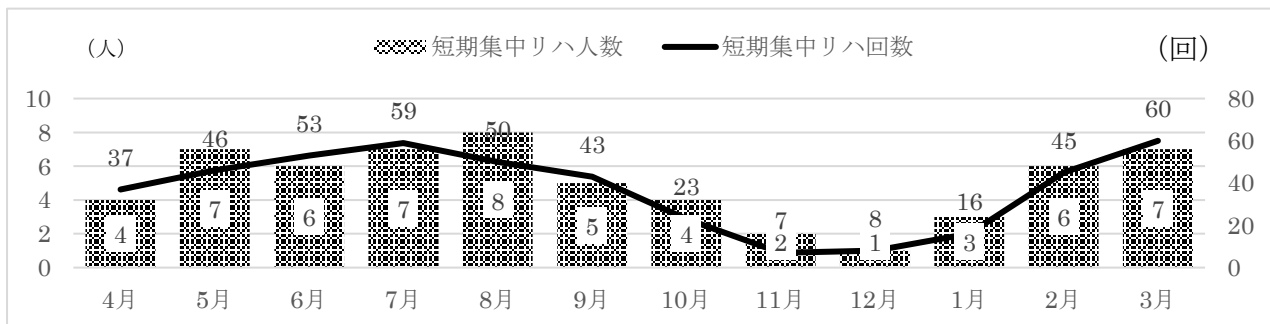
カ. 利用継続率と利用中止割合



64.4%の方が利用を継続されています。

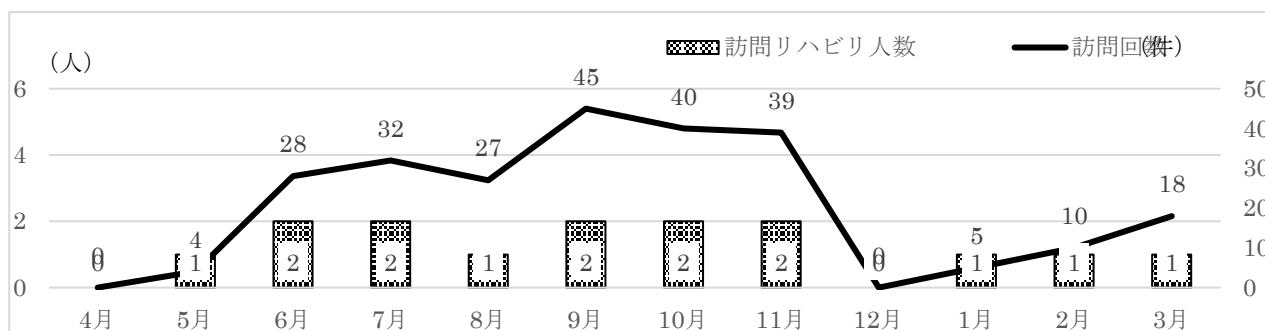
キ. 通所 短期集中リハビリ加算・実施人数と回数

対象者：平均 37.3回/月 (4年度 平均 20.1回/月)



短期集中リハビリはご本人・家族の意向とケアマネジャーの支援計画に沿って実施しました。昨年度は対象者が少なく低下しましたが、今年度は平均して新規利用者が多く見られましたので、大幅に実施回数が増加しました。

④訪問リハビリ 実施人数と実施回数



5年度は5月から訪問リハビリを再開することが出来ました。年間実施4人、総数248回でした。

(2) 部門別報告

①支援相談員

ア. 入所率95%以上の確保

今年度の入所率は94.81%でした。昨年度は95.16%で前年度と比較して0.35%減少しました。今年度の入所者107人に対して医療機関から81人、その内の協力医療機関から50人、その他の医療機関から31人の入所でした。昨年度の入所者は91人で前年度と比較して16人増加しました。在宅からは21人の入所となっており、ケアマネジャーと在宅復帰に際して電話や書面での連携を取りながら8人の方が在宅復帰することができました(退所者総数105人)。特別養護老人ホームへの退所は19人と昨年の13人より6人増加しています。法人内の通所リハビリ・グループホームと月1回情報共有の会議を実施し、左記の事業所から紹介で入所につながったケースが1件あり今後も継続して取り組む予定です。

イ. 空きベッドを利用した短期入所

短期入所は5人の利用者が合計34日間ご利用されました。内訳は介護者の入院等緊急の要請で自宅から3人、地域包括ケア病棟より2人でした。

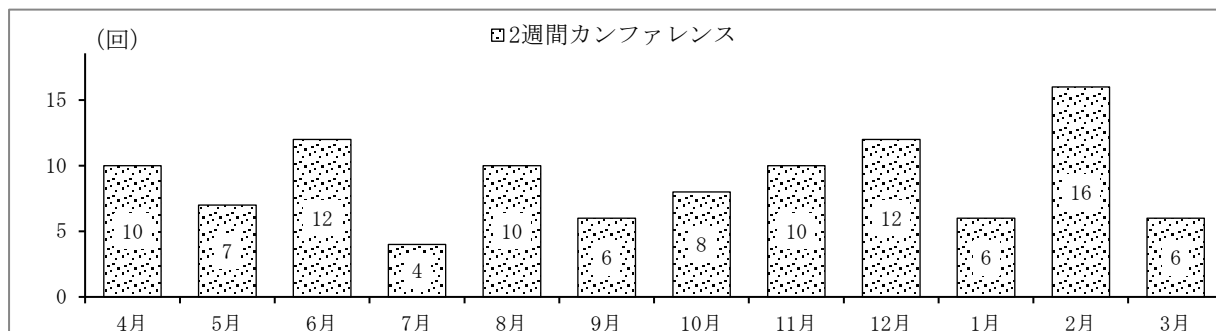
ウ. 在宅復帰・在宅療養支援機能加算の取得継続に向けた取り組み

昨年度と同様にベッド回転率・入所前後訪問指導割合・退所前後訪問指導割合の取得は継続できました。40点の指標を確実にするために、「喀痰吸引の実施割合」5%の取得を目標に嚥下状態に不安のある方を対象に訪問歯科医師による嚥下評価を実施、吸引の必要性を確認した上で適宜吸引を実施し、今年度は平均9.9%でした。今後も安定的な加算取得の継続を維持します。

エ. 入所前後訪問指導・退所前後訪問指導

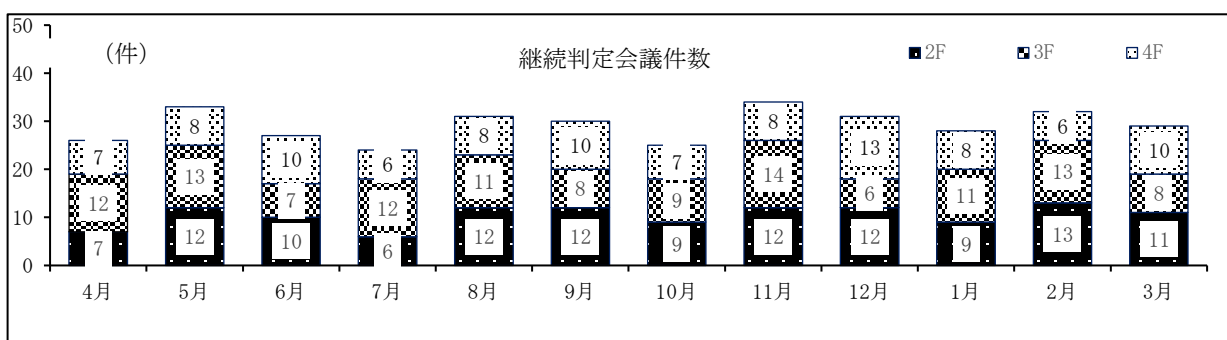
今年度も施設内外のサービス事業所と情報共有を図り、自宅とその他施設を合わせて14件スムーズな自宅・施設退所につなげました。

オ. カンファレンスの充実について



新規入所者に対し各フロアで 2 週間カンファレンスを確実に実施し、適宜ケアプランの修正や追加を行うことができました。

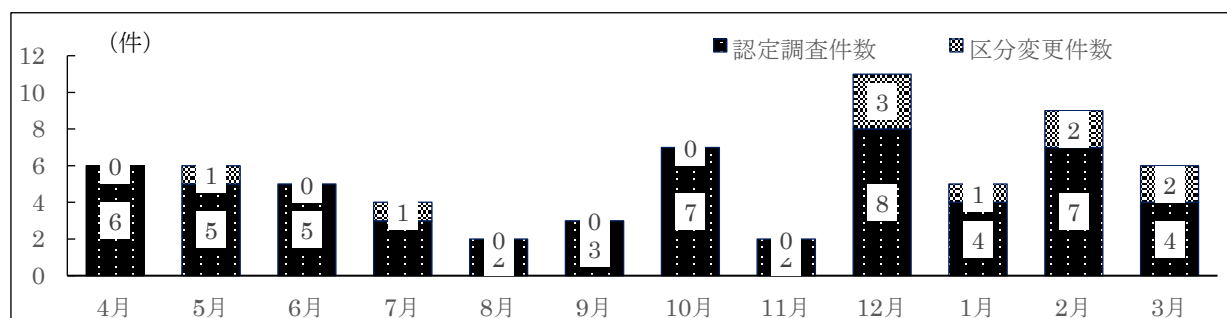
カ. 継続判定会議の開催



在宅復帰促進、状態悪化や長期入所者に対する適切な退所支援を行うため継続判定会議を実施、各フロア月平均 9.72 件でした。

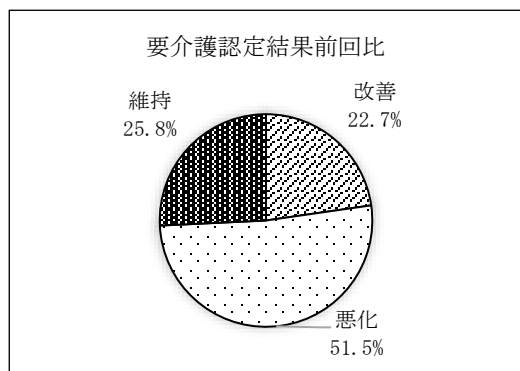
在宅等復帰は自宅退所 8 件、介護付き有料老人ホーム 10 件、住宅型有料老人ホーム 4 件、グループホーム 3 件、介護保険施設（特別養護老人ホーム）へは 19 件でした。

キ. 適切な区分変更の実施



令和 3 年 4 月から認定の有効期間が最長 4 年間になりましたが、今年の認定調査件数は 66 件と昨年の 56 件を上回る結果となっています。区分変更は 20 件で昨年の 23 件を下回る結果となりました。

ク. 要介護度の変化



要介護認定調査の結果、状態が維持改善し介護度が前回よりも軽くなった利用者は全体の22.7%でした。悪化が半数以上を占めている要因としては認定期間が最長4年となったため、前回の認定期間から長期間経過しているためと想定されます。

ケ. その他

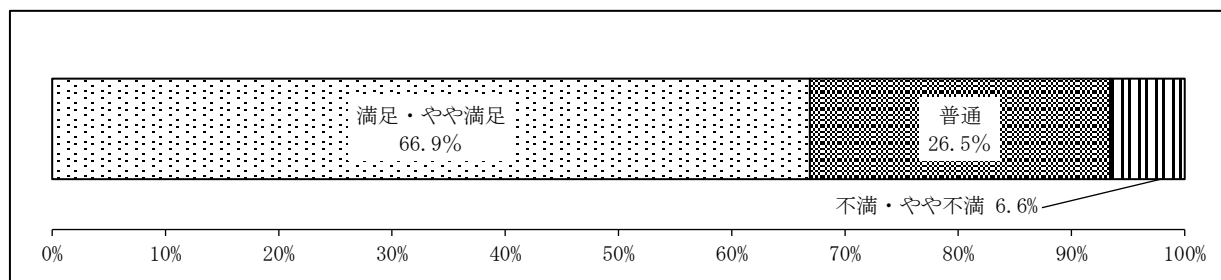
3年度の大幅な介護報酬改定により新たに新設された加算（科学的介護推進体制加算Ⅰ・自立支援促進加算・リハビリテーションマネジメント計画書情報加算・栄養マネジメント強化加算・かかりつけ医連携薬剤調整加算・口腔衛生管理加算Ⅱ）取得の継続を実施しました。それぞれの加算について各職種と協働して取り組みを実施、安定した収入源となっています。（科学的介護推進体制加算・自立支援促進加算は体制加算のため全利用者対象、かかりつけ医連携薬剤調整加算Ⅰ～Ⅲ年間合計77件、口腔衛生管理加算月平均47.9件）また上記の加算はLIFE（科学的介護情報システム）への情報提供が必須で他職種と協働して取り組みました。

②栄養部門

ア. 嗜好調査を2月に行いました。

対象者140人、回答率97.1%

満足度は（満足・やや満足）66.9%と目標の75%以上は未達成でしたが、全体的に前年度と比較し満足度は7%程増加しました。入所者・通所者共に利用者の不満やや不満・普通の回答が減少した分、満足度が増加しました。新型コロナウイルス5類に移行しパーテーション使用の中止や、外出レク実施など満足度の増加に繋がったと思われます。



前年との比較

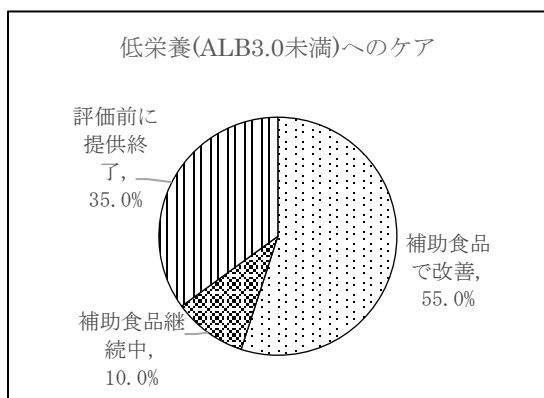
%	満足 やや満足	普通	不満 やや不満
4年度	66.9	26.5	6.6
前年比	+7.1	-5	-2.1

- ・ 食事委員会は職員及び給食委託業者で組織し、食事サービス向上に向け、月1回開催しました。月1回の行事食、週1回の選択食を実施しました。
- ・ 衛生管理に努めました。

個人衛生管理、施設設備管理、原材料の取扱管理、器具類管理、食品取扱管理、廃棄物管理等については、点検表を設け管理を行いました。主なものとして、使用水の残留塩素濃度（毎日、始業時・終業時）の測定、毎食ごとの加熱食品の中心温度の測定等39項目について行いました。

- ・ 食中毒予防として、検収場での品質・鮮度・品温・異物混入等の点検、調理器具の洗浄・消毒・乾燥等、厨房スタッフへの教育を徹底しました。（5、12月実施）

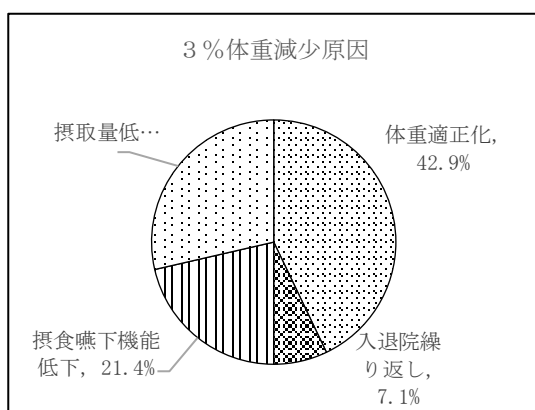
イ. 適切な栄養ケアマネジメントを実施しました。



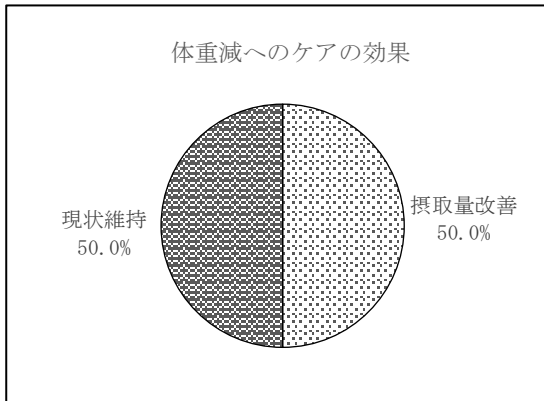
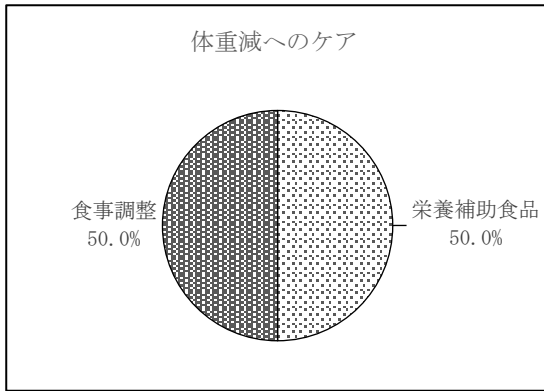
入所者に対して栄養スクリーニングを実施し、3ヶ月毎のアセスメントを実施する事により、低栄養状態（ALB3.0未満）のリスクがある入所者を把握し、栄養計画に反映させました（新規入所者：107人を含む延べ439人）。

低栄養リスクの高い入所者に対して、低栄養状態を改善する為の計画を作成し、栄養ケアを行いました（合計20人、病院や施設からの入所者）。

その結果、栄養補助食品にて改善は11人（55.0%）、栄養補助食品継続中は2人（10.0%）、評価前に入院し提供終了は7人（35.0%）でした。



入所者の内、直近6か月で3%以上の体重減少があった入所者は14人（14.4%）でした。（適正体重化：6人（42.9%）、入退院繰り返し：1人（7.1%）、摂食嚥下機能低下：3人（21.4%）摂取量低下：4人（28.6%））でした。



体重減少がみられた入所者 14 人の内、摂食嚥下機能低下が原因の 3 人は歯科の介入を行い、ミールラウンドや嚥下リハビリの対象とし、随時、食形態やとろみの濃度等を変更しています。

摂取量の低下があった方では栄養補助食品を使用した方は 2 人 (50%)、食事調整した方が 2 人 (50%)、その結果、効果があり摂取量改善は 2 人 (50%)、現状維持の方は 2 人 (50%) でした。

栄養充足率 (摂取量/必要量) はエネルギー 111.7%、蛋白質 109.9% でした。

ウ. 摂食、嚥下困難な入所者への栄養ケアを実施しました。

- ・訪問歯科などの他職種と連携し、適宜嚥下評価を実施し、誤嚥性肺炎や低栄養や褥瘡の予防に努めました。
- ・医師の指示に基づき、経口により食事を摂取している方で、著しい摂食障害があり誤嚥が認められる入所者に対して、経口維持計画書 (摂食・嚥下機能に配慮した計画、他職種による評価、記録) を作成しました。
(経口維持加算 (I・II) 14 人)
- ・訪問歯科による嚥下評価は 21 件、その内 6 件が経口維持加算算定者となりました。
(残り 15 件は経口維持算定基準には満たないとの評価)

エ. 提供食数

食種ごとの食数表 (令和 6 年 3 月・昼食の平均)

主 食						
米飯	軟飯	全粥	粥ミキサー	粥ソフト	パン	合計
55	30	30	3	1	2	122

副 食					
常食	一口大	刻み	ミキサー	ソフト	合計
50	27	39	4	2	122

・実習生の受け入れはありません。

③看護・介護部門

ア. 入所者・家族の満足度の向上

- ・ 家族への「満足度アンケート」の結果、「普通以上」の評価 90%以上は、今年度も到達しました。アンケートの結果に対するフィードバックの掲示を行いました。
- ・ 満足度アンケートでは昨年と同様に面会に対する要望が多数見られましたので、面会特別枠を設けて対応することにしました。今後は感染状況と近隣事業所の面会対応をもとに徐々に緩和していく予定です。
- ・ 昨年同様、職員の自己点検シートを基に個人アクションプランの振り返りを実施、サービス向上に取り組みました。

イ. 事故・感染に対するリスクマネジメント能力の向上

- ・ 転倒防止物品の使用状況を全体会議で毎月報告し全職員で情報共有に務めました。
- ・ 転倒防止物品は、事故防止委員会で定数管理を行いました。
- ・ 転倒事故の発生数は、3年度 97 件、4年度 44 件、5年度 74 件でした。内訳は転倒転落 66 件、誤薬 3 件、皮膚の損傷 2 件、その他 3 件でした。
- ・ 誤薬に関しましては薬剤師を含めた合同カンファレンスを開催しました。
- ・ 事故防止委員会が主となり、転倒防止物品の適正な選択・管理を行いました。次年度に向けた購入計画を検討しました。
- ・ 感染対応は日常的な感染対策に加えて、食堂のスクール形式、換気、食事時口腔ケア時のフェイスシールド、消毒液ポーチの常時所持を継続実施しました。適宜館内の清掃・消毒に努めました。
- ・ 感染防止マニュアル等を感染状況に応じて適宜改訂しました。

ウ. ケアの質の担保

- ・ 新規採用者に向けた指導マニュアル及び業務手順マニュアルを見直しました。
- ・ 研究教育委員会で研修計画を立案、実施しケアの質の向上に努めました。
- ・ 新人職員研修 5 回、AED 研修 2 回、認知症研修 3 回、感染症研修 2 回、権利擁護研修 2 回、口腔ケア研修 2 回、食品衛生研修 2 回、事故防止研修 2 回、リーダーシップ研修 1 回実施しました。
- ・ 昨年同様に部署ごとに取り組んだ研究・業務改善の成果をポスターで発表することができました。
- ・ 歯科医師・衛生士による往診・ケアを週 3 回実施しました。肺炎で入院した利用者は令和 3 年 11 件、4 年 10 件、5 年 4 件でした。
- ・ 法人内の認知症介護大府センター長と定期的に薬剤カンファレンスの場を設け、認知症の専門的な立場からのアドバイスをいただきました。

エ. 入所者の安心と働きやすい職場づくりのための業務改善

- ・ 新卒学生採用サイトと契約、インターンシップを実施し、新卒学生の採用に向けて取り組みました。新規採用者の教育に活用するための業務手順の見直しを行いました。
- ・ 介護補助員を採用し、対人援助が少ない業務を担ってもらいました。専門職が対人援助に専念できるよう業務改善を実施しました。

④入所リハビリ部門

ア. 入所者のリハビリについて

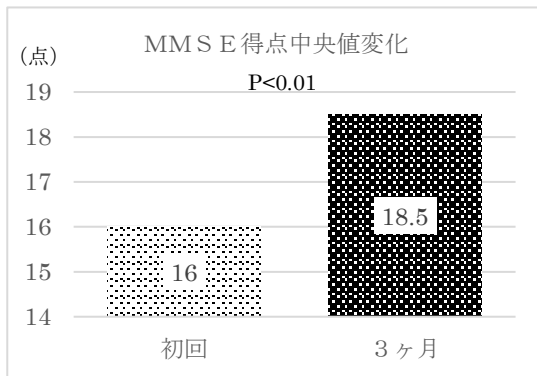
- ・ コロナ禍に対する感染拡大予防のため職員体制を昨年度と同様にリハビリ職員の兼

務を中止し、フロア間の移動も最小限とする職員配置（各フロア担当制）でのリハビリを継続しました。また、通所利用者との接触を避けるために、機能訓練室での個別リハビリを中止し、フロアでのリハビリも継続しました。

- 在宅復帰の可能性の有無に関わらず、対象期間で体調に問題のない利用者すべてに、短期集中リハビリを提供し対象人数が低下しないよう努めました。
- 認知症の短期集中リハビリの実施は、実施条件を満たす利用者には自宅復帰の可能性の有無に関わらず実施しました。

イ. 心身機能の維持向上

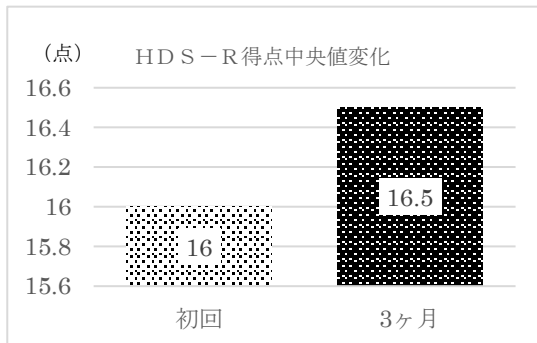
- 認知症短期集中リハビリ実施者の評価結果



5年度に認知症短期集中リハビリを開始し、終了している入所者は42人でした。

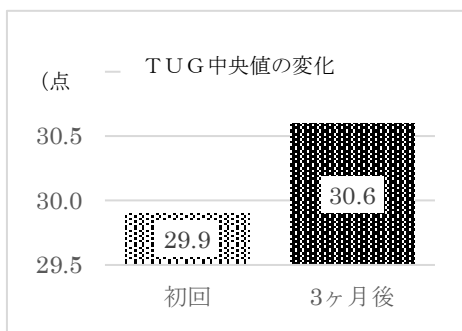
認知機能評価（MMSE）は、実施前と終了後の中央値の変化を比較し、初回は16点、3ヶ月後（終了時）は18.5点で統計学的有意差もあり向上が図れました。

- 短期集中リハビリ実施者の評価結果



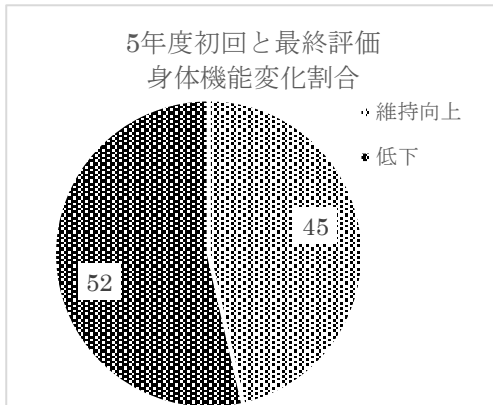
5年度に短期集中リハビリを開始し、終了している入所者は52人でした。

認知機能評価（HDS-R）は、実施前と終了後の中央値の変化を比較し、初回は16点、3ヶ月後（終了時）は16.5点で有意差はなく維持することが出来ました。

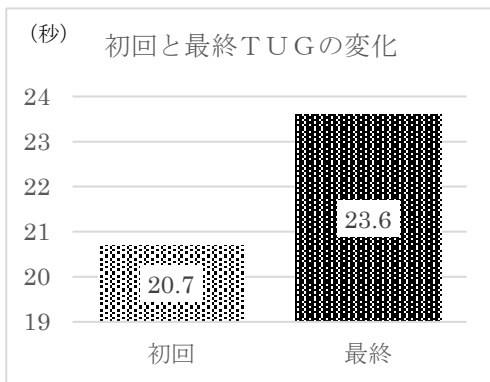


初回の評価と終了時の身体評価の維持向上群の割合は41.6%で、今年度も昨年と同様に短期間で身体機能が低下する新規利用者の割合が高かったです。しかしTUGが実施出来た14人については中央値の変化は初回29.9秒、3ヶ月後（終了時）30.6秒で有意差はなく維持することが出来ました。

・入所者全体におけるリハビリ評価結果



5年度に3ヶ月以上の入所者を対象に、初回と最終評価を実施出来た方97人の身体機能の変化を比較しました（評価項目：TUG・5m歩行・30秒間立ち上がり・立位保持時間・5m車椅子自操時間で、各入所者のレベルによって選定）。初回に比べ運動機能が維持向上出来た入所者の割合は46.4%（目標達成率77.3%）で、入所期間の長さに関わらず低下している入所者が多く見られました。



その中で、初回と最終でTUGの評価が行えた方は43人で、中央値の変化は初回20.7秒、最終23.6秒で有意差はなく維持出来ていました。

⑤通所リハビリ部門

ア. 安定した利用者数の確保

- ・利用者数は1日コースの目標平均27人に対して27.5人でした。短時間コースの目標5人に対して5.1人でした。あわせて1日の目標平均32人に対して32.6人でした。
- ・利用体験は26人でした。その内、本利用に繋がったのは17人（65%）でした。昨年の80%に比べると減少しました。
1日コースの利用枠を30人から31人に拡大しましたが、入院し退院した後も変わらずルミナスに通いたいという声が強かった為、更に利用枠を33名まで増やしました。それにより、またルミナスに通うという目標が出来た為、退院後はデイケアを終了することなく、継続利用に繋がりました。
- ・近隣の居宅介護支援事業所とは、大府市が主体となり管理しているインターネット上の情報共有サイト「おぶちゃん連絡帳」の活用も徐々に広がり、細かい情報やデータの共有が可能となっています。

イ. 在宅生活が健やかに継続できるよう自立支援の展開

- ・計画書の作成、見直しを適切に行い目標の把握と対応を続けるよう心掛けました。
- ・連絡帳を基本とし細かく情報共有を家族と行いました。
- ・レクリエーションと季節行事を希望される方が多く、感染対策に留意した季節レクリエーションを毎月開催しました。

ウ. 安心、安全な送迎サービスの提供

- ・事故情報をスタッフ間で共有し、危険な場所の把握に努めています。

エ. おもてなしの心でふれあいケアの提供

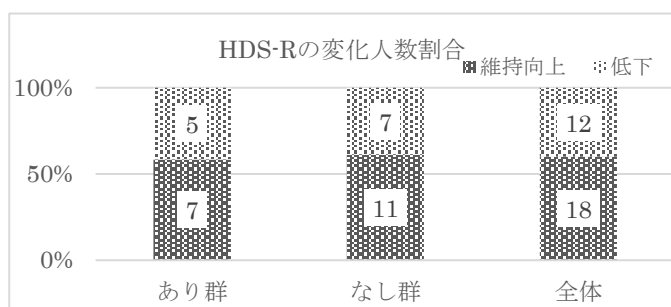
- ・利用者の情報を各スタッフが把握し、好む話題やレクリエーションの提供、家族関係や身体の不安への傾聴を心がけています。

オ. リハビリの実施

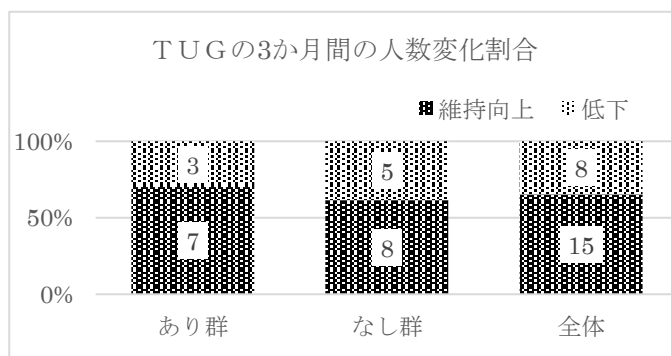
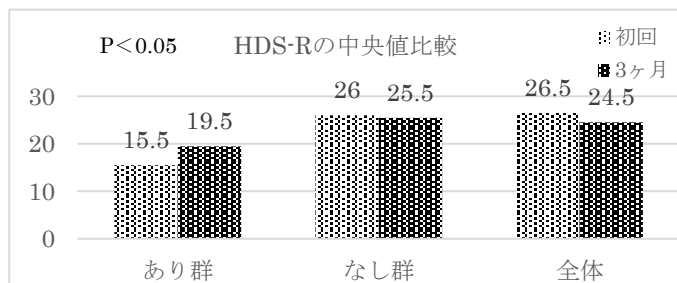
- ・居宅の介護支援専門員のケアプラン上で設定された、短期集中リハビリ加算は100%実施しました。5年度に新規で通所リハビリをご利用された利用者は34人で、その内、短期集中リハビリを実施したのは12人でした。

カ. 心身機能の維持向上

- ・新規利用者及び再開者の短期集中リハビリ利用者のリハビリ評価結果

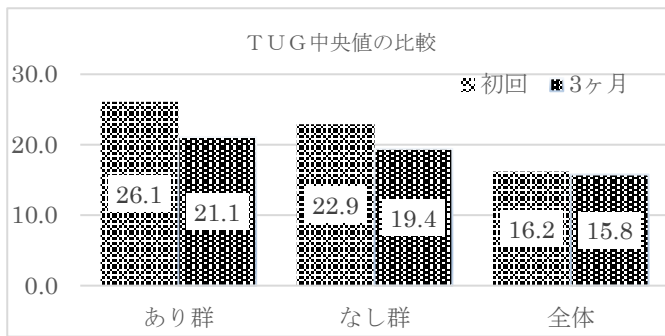


新規・再開利用者34人中、3ヶ月以上のご利用があり認知機能評価（HDS-R）が実施できたのは30人でした。そのうち短期集中リハビリの対象者は12人でした。短期集中の有無に関わらず全体の中央値は26.5点から24.5点と下がったが有意差はなく60%の利用者で維持出来ました（目標達成率100%）。

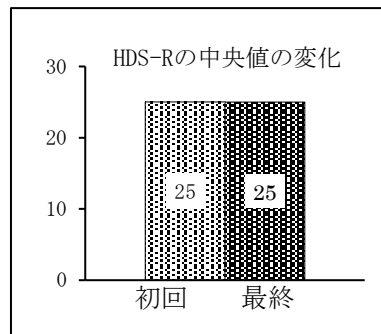
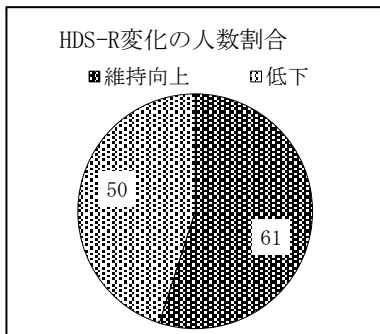


新規・再開利用者34人中、移動・バランス評価（TUG）が実施できたのは23人でした。

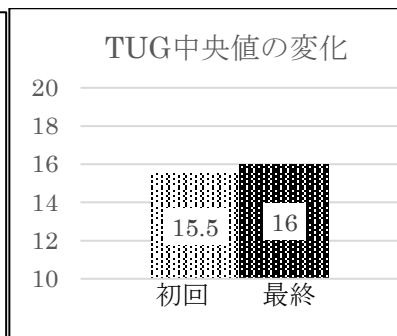
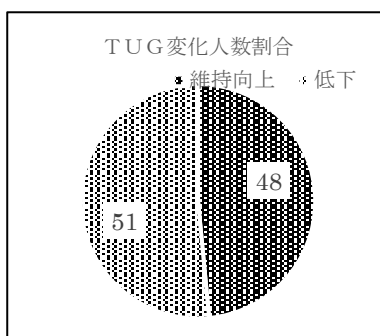
短期集中リハビリの有無に関わらずTUG中央値の変化に有意差はなく、65%以上の人数割合で維持向上することが出来ました。（目標達成率108%）
昨年度同様に握力の方も有意差はなく維持出来ていました。



・5年度に3か月以上継続利用が出来た全利用者132人の評価結果



132人中3ヶ月以上の継続利用があり認知機能の評価（HDS-R）が行えた利用者111人で、初回と最終の中央値に有意差はなく、維持出来たが、維持向上群の人数割合は55.0%（目標達成率91%）でした。



132人中3ヶ月以上の継続利用があり歩行・バランス機能の評価（TUG）が行えた利用者は99人でした。初回と最終の中央値に有意差はなく、維持出来たが、維持向上群の人数割合は48.4%（目標達成率80.7%）でした。

キ. 訪問リハビリテーションを再開しました。

ク. 新型コロナウイルス感染症対策

- ・ 食事の時間等、対面に座位しないよう徹底しています。
- ・ 利用者へ不織布マスクの装着を繰り返し説明、依頼しています。
- ・ 常時窓を開けサーキュレーターも設置し空気の循環に努めました。
- ・ 車内の感染を防ぐため、乗車前に体調を確認しております。また、窓を開け乗車時濃厚接触にならないよう配慮しています。
- ・ 利用者、同居家族に毎日の検温に協力をしていただき、発熱などの兆候を早期に発見できるよう努めています。
- ・ 本人、ご家族に発熱等異常があった場合は数日間の欠席を依頼しました。
- ・ 利用者間の感染を防ぐため、共有物品を減らし、共有せざるを得ないものは都度消毒を行っています。12月に発生したクラスター後は隣の座席の方と共有していた

お茶ボトルを撤去しました。

- ・ 喫茶コーナーはスタッフへの注文方式にし、その都度手指消毒し提供しました。
- ・ フロア入所者と、デイケア利用者の接触を避けるため、入浴時間を厳密に区別し対応しています。
- ・ スタッフ間の感染対策として、食事をとる場所、時間を分けて対応しています。
- ・ 抗原検査キットをスタッフ全員に渡し、休みの日でも迅速に検査を行える体制を整えました。

(3) 委員会実施状況

委員会名	実施内容	結果
感染	<ul style="list-style-type: none"> ①感染症への対応 ②感染症マニュアルの改訂 ③学習会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ①8月に新型コロナ感染者、2月にインフルエンザ感染者が発生しました。マニュアルに沿った早期対応により感染拡大を防ぐことができました。委員会で振り返りを行い、仮眠室の消毒徹底、換気、感染対策物品の早期使用を再度徹底することにしました。また発生時は、各フロア事務所間の情報交換を ZOOM にて密に行いました。 ②感染症マニュアルを適宜改訂しました。 ③研究教育委員会と連携し感染に対する研修を実施しました。
事故防止	<ul style="list-style-type: none"> ①転倒転落ヒヤリハット PC 入力、集計分析 ②転倒以外の事故(誤薬)の対応 ③勉強会の開催 ④福祉用具の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ①転倒事故の発生数は、3年度 97 件、4年度 44 件、5年度 74 件でした。5年度の内訳は転倒転落 66 件、誤薬 3 件、皮膚の損傷 2 件、その他 3 件でした。 ②薬剤師を含めた合同カンファレンスを開催しました。 ③11月に KYT トレーニング、2月にシーティングの勉強会を実施しました。 ④赤外線センサー、オートブレーキ式車椅子等のデモを実施しました。
研究・教育	<ul style="list-style-type: none"> ① 権利擁護、感染対策、事故防止、権利擁護研修を部署ごとに実施。 ② 施設内研究報告会をポスター掲 	<ul style="list-style-type: none"> ①部署ごとに少人数での話し合いや、ネット配信等の動画視聴による研修を中心に実施しました。AED 研修、認知症研修、感染症研修、権利擁護

	<p>示式で3月に実施。</p>	<p>研修、口腔ケア研修、食事研修、新人職員研修、事故防止研修を実施しました。研修に参加出来なかった職員にも資料を配布し、全職員が研修内容に目を通す事で、知識の共有に努めました。</p> <p>②研究報告をポスター掲示式で実施しました。研究報告は事務、デイケア、グループホーム、リハビリ、2階フロア、3階フロア、4階フロアの7部門で実施しました。掲示後に意見、感想用紙を作成、部署ごとに実施しました。</p>
サービス向上	<p>①家族への「満足度調査」の実施</p> <p>②入浴物品・おむつの発注、管理及び、浴室用転倒予防マットの検討</p>	<p>①10月に満足度調査を実施しました。アンケート結果からご家族の意見をフィードバックしました。昨年同様に面会に対する要望が多数を占めていました。面会特別枠を設けて対応することにしました。今後も感染状況と近隣事業所の情報をもとに緩和策を検討していきます。</p> <p>②浴槽の劣化が激しいことから、滑り止めマットを活用していく方向で、検討しました。今後は浴室の改修を含めて検討していきます。</p>
行事	<p>コロナ禍により、施設全体での行事が実施出来ませんでしたでしたがその分フロアごとに行事を行いました。家族との面会の機会が失われたことからくるストレスの軽減に努力し、フロアごとのレクの企画を行いました。</p>	<p>感染症対策のため、行事は全体で行わずに感染対策の上、フロア毎に行いました。</p>
広報	<p>① 年4回の新聞発行</p> <p>② ホームページの管理。新着情報の週1回程度の更新。Instagramの開設。</p>	<p>①保健センター、公民館に新聞を置かせていただくだけでなく、相談員が外部施設へ出向く際にも新聞を配布して、施設の宣伝材料として利用してもらいました。</p> <p>②ホームページの閲覧件数が昨年度8559件に対して今年度は7644件に減少しました。発信力強化の為イン</p>

		スタグラムを開設し、244 人のフォロワー獲得。
食 事	<ul style="list-style-type: none"> ① 厨房職員同伴でのフロア巡回、嗜好調査 ② 月 1 回の行事食、週 1 回の選択食の実施、衛生管理点検 	<ul style="list-style-type: none"> ① 食事形態の調理基準の明確化、嗜好調査結果の改善 ② 行事食、選択食の提供
防 災	<ul style="list-style-type: none"> ① 防災訓練前に実施(11月・3月)。 ② コロナの影響を考慮し、通常と違う方法を検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ①防災訓練を 2 回(全体訓練 11/15、夜間想定 3/15) 実施しました。全体訓練は、2F を出火場所として訓練を行いました。初期消火については全フロアより駆け付け消火を行いました(コロナ禍は出火フロアのみ)。 ②今年度の訓練はコロナウイルスに対する感染対策として支援グループの応援は行いませんでしたが、法人内の本部、認知症介護研究・研修大府センターと障害者福祉施設サンサン大府の応援要請はおこないました。支援グループ総会については訓練と同じく、中止としました。
ICT	<ul style="list-style-type: none"> ①福祉機器のデモ実施 ②国立長寿医療研究センターからの伴走支援の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①将来的な電子カルテの導入に向けてデモを実施しました。来年度も継続して実施していきます。 ②国立長寿医療研究センターと伴走支援業者と共同して業務効率化の燃える事業を実施しました。今回は移乗支援ロボットを導入して業務効率化を検討しました。来年度は生産性向上委員会に名称を変更し取り組んでいきます。
BCP	BCP(自然災害)の作成	<p>BCPの作成</p> <p>大規模な自然災害に備え、業務継続のために平時からの準備体制の整備及び発生した際の利用者と職員の安全確保と、被害を最小限にとどめて事業を継続することを目的とし、厚生労働省のマニュアルに沿って BCP を作成しました。</p>

(4) ルミナス大府夏祭り

毎年地域の方々のご協力により開催しているルミナス大府夏祭りは新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮して中止としました。

全体行事としては中止をしましたが、各階でフロア毎の行事の充実を図りました。

(5) 地域貢献事業

①認知症伴走型相談事業

大府市の委託事業として認知症伴走型相談支援事業を実施しました。認知症介護の専門的知識、経験をもった職員が相談員として対応しました。

- ・法人施設内の相談所 : 毎週月、水、金曜日の午後 13 時 30 分～16 時 30 分、
- ・デニーズ大府店の相談所 : 毎月第 4 月曜日の午後 14 時～午後 16 時 30 分

②認知症カフェくちなし

(5 年度 参加者 450 人 12 回開催)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
参加者数	31	34	41	36	31	31	39	35	49	40	240	43	450

参加者については認知症の当事者及び介護者が延べ 185 人、一般住民が 73 人、ボランティア・スタッフ等 192 人でした。昨年度と比較して 125 人増加しています。

新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行したことにより、5 月からお茶菓子の提供を再開し、それに伴い開催時間を 10:00～11:30 の 1 時間半としました。

③介護予防教室「かがやき塾」

新型コロナウイルス感染症の影響で中止をしていました介護予防教室「かがやき塾」を再開しました。施設職員がそれぞれの専門分野の視点から介護予防に関連したお話をさせていただきました。

- ・10 月 19 日、11 月 2 日、11 月 16 日、11 月 30 日、12 月 7 日
- ・吉田公民館
- ・参加者延べ人数 133 人

④ふれあいサロンへの協力

「ふれあいサロンわかば」へ施設職員が出張訪問し、健康体操教室を実施しました。

- ・3 月 25 日
- ・吉田児童老人福祉センター
- ・参加人数 12 人

(6) 防災防火対策の取り組み

①防災訓練を 2 回 (全体訓練 11/15、夜間想定 3/15) 実施しました。

全体訓練は、2F を出火場所として訓練を行いました。初期消火については全フロアより駆け付け消火を行いました (コロナ禍は出火フロアのみ)。

今年度の訓練はコロナウイルスに対する感染対策として支援グループの応援は行いませんでしたが、法人内の本部、認知症介護研究・研修大府センターと障害者福祉施設サンサン大府の応援要請は実施しました。

②支援グループ総会については訓練と同じく中止としました。

(7) 地域連携事業

①地域ボランティア

新型コロナウイルス感染症の影響で中止をしていました地域ボランティアに方々による喫茶店を再開しました。毎週月曜日の午後に実施しております。

その他生け花ボランティア、三味線演奏ボランティアの方に来ていただき、地域の方々との交流の機会を設けることが出来ました。

②福祉健康フェア、吉田公民館まつり

大府市が主催する「大府市福祉・健康フェア」および吉田公民館が主催する「吉田文化ふれあいまつり」に参加し、パンフレットの掲示・配布等、施設のPR活動を実施しました。

大府市福祉・健康フェア 9月24日

吉田文化ふれあい祭り 10月7日、8日

③ウェルネスバレー推進協議会

大府市・東浦町が主催する、ウェルネスバレー運営委員会、ウェルネスバレーヘルスケア産業振興ワーキンググループの委員として参加し、ウェルネスバレー地域の医療・福祉の発展に協力しています。ヘルスケア産業振興ワーキンググループでは企業と連携をし、介護ロボット及びリハビリ機器の実証実験を進めています。

(8) 実習生の受け入れ

桃陵高校、藤田医科大学の実習生を受け入れました。

(9) PR活動

透明性が高く、地域に開かれた施設であるために当施設のサービス内容や日々の取り組みを地域の方々に広く情報発信する手段として年4回ルミナス通信の発行、ホームページ、Instagramの更新に努めました。

①ルミナス通信

発行回数：年4回

配布場所：市保健センター、市内の公民館、市内医療機関等

発行部数：計1500部

発行号数	発行日	内容
第89号	令和5年4月1日	豆まき・もの忘れ何でも相談室

第90号	令和5年8月1日	ボランティア喫茶再開・訪問リハビリ再開・育児休暇取得者インタビュー
第91号	令和5年10月1日	大府福祉・健康フェア出展・吉田公民館まつり出展・特殊浴槽、HUG紹介 リハビリマシーン紹介
第92号	令和6年1月1日	新年のあいさつ・ご長寿様に聞いてみた

②ホームページ、Instagram

新型コロナウイルス感染症対応マニュアル等、日常的に施設の取り組み状況をホームページで発信しました。令和3年度から広報委員会を組織してホームページを管理し、週1回新着情報を更新してきました。閲覧数は昨年度の8,559件に比べ、7,644件と915件減少しました。発信力の強化のため、令和6年度はInstagramを立ち上げ、244の方にフォローしていただきました。職員採用にも役立っておりホームページの求人サイトから数件応募いただきました。

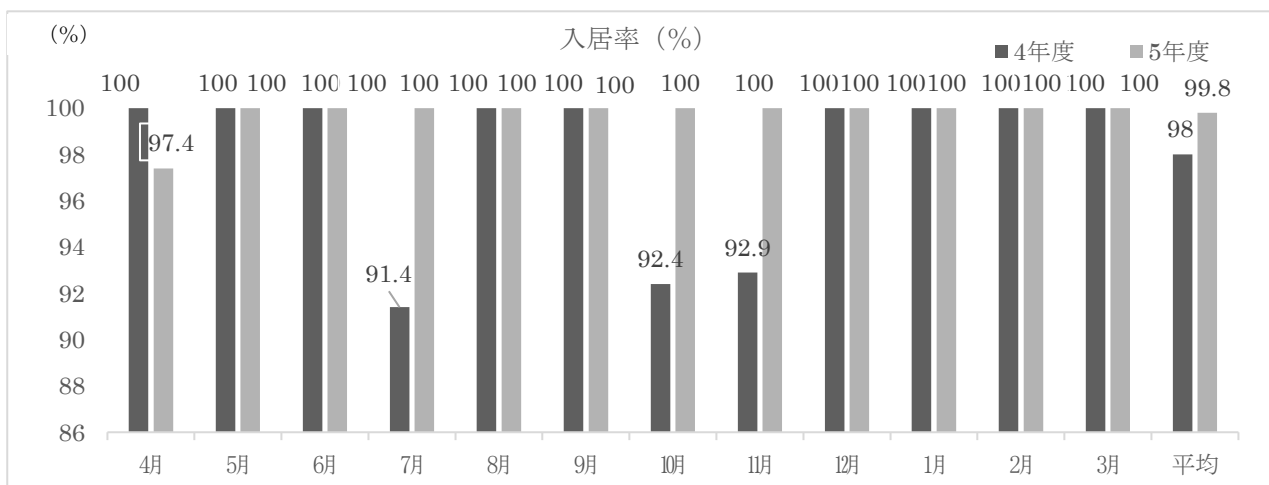
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
閲覧回数	669	824	804	661	685	610	668	548	538	547	535	555	7,644

6. 認知症高齢者グループホーム・ルミナス大府

利用者の意志及び人格を尊重し、有する能力に応じた日常生活を支援し、家庭的な環境づくり住心地の良いホームの中で楽しく生活して頂けるよう努めました。

(1) 入居者状況

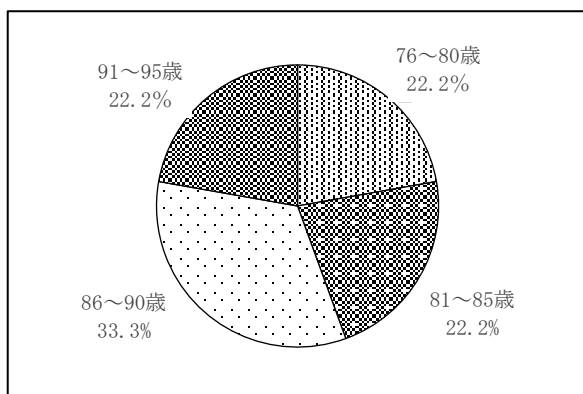
①各月入居率（4年度98%）



今年度の入居率は99.8%でした。退所は4月1名、8月・11月体調不良者1名出ましたが、併設の老人保健施設、協力医療機関と連携し長期間部屋を開けることはありませんでした。

②年齢別割合

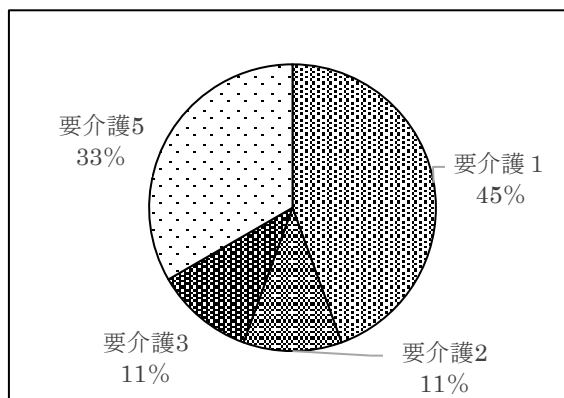
平均年齢 85.7 歳（4 年度 84.4 歳）



平均年齢は 85.7 歳でした。

③介護度別割合

平均介護度 2.66（4 年度 2.88）



平均介護度は 2.66 でした。

(2) 個別ケアの充実とサービスの質の向上
季節の行事

月	活 動 内 容
4 月	花見(個別での散歩) パン作り
5 月	餃子作り・お花まつり・たこ焼きパーティー
6 月	餃子作り
7 月	七夕会
8 月	グループホーム夏祭り
9 月	敬老会・お月見
10 月	ハロウィンパーティー
11 月	パン作り
12 月	グループホームクリスマス会 (ケーキ作り) グループホーム餅つき (鏡もち作り)
1 月	新年の挨拶 (1 年の抱負)・書初め
2 月	節分 (豆まき・恵方巻き作り)・おこしもの作り いちご狩り (半田市野園芸)
その他	誕生会 (入居者毎に実施) 随時散歩・老健の喫茶・カフェくちなし

- ・ 事故防止委員会・拘束委員会は定期的に行い、スタッフ会議で報告し話し合いを行いました。
- ・ 毎月のスタッフ会議時に拘束・虐待・感染・防災・見取りについての勉強会を行いました。
- ・ 計画作成担当者を中心にスタッフ間で個別支援内容を共有しケアの充実を図り、状態変化時には確実に見直しを行いました。

(3) 家族との連携

- ・3ヶ月毎の家族会は5年度も開催できなかった為、個別でご家族、利用者との面談を実施しました。
- ・利用者の状況は電話又はメールのやりとりや、お手紙で様子の報告をしました。グループホーム新聞年5回発行し、ご家族へホームの様子を見て頂きました。

(4) 主治医との連携

- ・4月7・20日、5月4・19日、6月16・30日、7月14・28日、8月10・25日
9月15・28日、10月13・27日、11月10日、12月8・22日、1月5・19日
2月2・16日、3月1・22日 計23回訪問診療あり状況報告を適切に行いました。
- ・利用者の体調不良時には電話連絡及び指示を仰ぎ受診又は往診して指示を頂きました。

(5) その他

- ・運営推進委員会
5月・7月・9月・10月・11月・1月・3月に推進委員会を実施しました。
- ・防災訓練
老健協力の防災訓練 11月15日
ホーム内防災訓練 11月29日・1月22日・3月14日
消防署視察 12月14日
- ・法人内連絡会を毎月開催しました。事業所内の活動や運営状況を報告し、連携を深めました。

2. 大府センター拠点

【事業全体について】

令和5年度においては、社会福祉法人仁至会及び認知症介護研究・研修センターの理念を念頭に、認知症施策推進大綱に基づく施策及びセンター運営事業の実施に係る厚生労働省老健局長通知を踏まえて研究事業、研修事業、普及啓発・情報発信、若年性認知症支援の4つの使命に係る事業を計画により実施し、併せて、愛知県委託事業についても県と連携し取り組みました。

また、事業の推進に当たっては、引き続き感染症にも留意しながら、センター内の各部門及び他センターとも連携を図り、各事業の着実な実施に取り組みました。

なお、本年1月に施行された「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」の趣旨及び基本計画策定に向けた動向にも留意しつつ、新たな研究の柱や若年性認知症支援の方向性についても検討を進めているところです。

1. 認知症介護に関する研究事業

以下のとおり、研究補助金・助成金等の確保による研究として、新たに3年間にわたる多機関協働研究である厚生労働科学研究費補助金認知症政策研究事業を中心に研究を進めるとともに、センター運営事業による7課題の研究に取り組み、併せてセミナー等で研究成果を広く介護関係者等に周知しました。

(1) 研究補助金・助成金等による研究事業

- 1) 厚生労働科学研究費補助金認知症政策研究事業
 - ・若年性認知症の病態・支援等に関する実態把握と適切な治療及び支援につなぐプロセスに資する研究(7,432千円) (新規、多機関協働研究、3ヶ年計画)
- 2) 文部科学省科学研究費助成事業
 - ・感情表現が精緻に制御された音声刺激による認知症者の感情理解機能の解明(新規、分担研究)(520千円)
- 3) 国立研究開発法人科学技術振興機構(社会技術研究開発センター)研究委託事業
 - ・SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム(社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築) 研究開発
 - 「生きがいボランティアシステムの構築による社会的孤立・孤独の持続的な予防」(継続、分担研究、979千円)

(2) 運営事業費による研究 (2,522千円)

- ① 介護サービス事業所等における認知症者の社会参加活動を促進するリハビリテーションプログラムに関する研究 (継続)
- ② ケア現場における課題解決のためのツール作成と評価に関する研究 (継続)
- ③ 情報共有システムの活用による若年性認知症支援コーディネーターの活動状況把握と課題分析に関する研究 (継続)

- ④ 認知症ケアにおけるスーパーバイザーの行動特性の開発に関する研究（継続）
- ⑤ 認知症ケアレジストリ研究（継続、3センター共同）
- ⑥ 認知症介護実践者研修の教育効果の評価尺度（アウトプット・アウトカム評価）に関する研究（新規、3センター共同）
- ⑦ 認知症介護指導者の活動実態に関する研究（新規、3センター共同）

（3）第21回認知症ケアセミナーの開催

令和4年度に実施した研究事業の4課題について成果報告しました。

- ※併せて、研究関連の実践報告、全国若年性認知症支援センター事業の報告を実施
- ・令和5年8月23日(水) ウィンクあいち 参加者数95名

（4）認知症介護研究・研修3センター合同研究成果報告の実施（東京センター担当）

- ・3センターが令和4年度に実施した研究9課題について成果報告しました。

※DC ネットでオンデマンドによる配信

配信期間：令和5年9月8日(金)～10月31日(火) 視聴回数：683回

2. 認知症介護等に関する研修事業

介護人材の育成、質向上のための研修を推進し、受講者の確保による収益の確保に努めるとともに、研修の実施に当たっては、引き続き感染症に留意しながら、少しでも受講しやすいようオンライン研修の活用を図りました。

（1）認知症介護指導者養成研修（厚生労働省の指定研修）

認知症介護基礎研修、認知症介護実践研修等の企画・立案に参画し、講義・演習・実習を行うことができる能力を身に付け、介護保険施設、事業所等における介護の質の改善について指導することができる認知症介護指導者を養成する研修を実施しました。

- ・研修日程（※集合&オンライン）

第1回 令和5年 6月 5日(月)～令和5年 8月 4日(金)

第2回 令和5年 8月 28日(月)～令和5年 10月 27日(金)

第3回 令和5年 12月 4日(月)～令和6年 2月 9日(金)

- ・修了者数：3回分で34名

（2）認知症介護指導者に対するフォローアップ研修（厚生労働省の指定研修）

認知症介護指導者に対して、最新の認知症介護技術や知識を一定期間ごとに指導者に伝達し、第一線の介護従事者が最新の認知症介護技術を的確に修得できる体制を整えることを目的とした研修を実施しました。

- ・研修日程

第1回（※オンライン）

令和5年11月2日(木)、7日(火)・8日(水)、21日(火)・22日(水)

第2回（※集合）

令和5年11月6日(月)～10日(金)

※11月7日・8日はハイブリッド形式で実施

・受講者数：2回分で12名

(3) 3センター合同 認知症介護指導者スキルアップセミナー

認知症介護指導者が指導者活動を実践していくために、継続的な学びの機会を提供し指導者としてのスキルアップを支援する研修を実施しました。

・研修日程 令和5年11月28日(火)（※オンライン）

・受講者数 57名

※若年性認知症に関する講義・実践報告

(4) パーソン・センタード・ケアと認知症ケアマッピング（DCM）法研修

英国ブラッドフォード大学で開発された、パーソン・センタード・ケアの理念に基づきケアの質を観察・評価するツールを使用した研修を実施しました。

① 基礎コース（※集合）

・研修日程

第2回 令和5年9月28日(木)～30日(土)

第4回 令和6年2月22日(木)～24日(土)

・受講者数：2回分で33名

※第1回・第3回は、特定非営利活動法人シルバー総合研究所が当センターと共催によりオンラインで開催。

② 上級コース（※集合） ※受講希望少数のため中止

(5) その他研修

1) スーパービジョン実践研修（※オンライン）

・公開講座開催 ※他業務との日程調整が付かなかつたため中止

2) 研究活動継続支援プログラム（※ハイブリッド）

認知症介護指導者を対象に、ケア現場における課題解決に向けた研究活動を支援する研修を実施しました。

・研修日程 年間7回開催

・受講者数 7名 ※論文化支援プログラム1名を含む

3) 知的財産権セミナー（※オンライン）

認知症介護指導者を対象に、知的財産権のうち著作権を中心として保護対象や権利機関などを学び、研修の企画・運営に役立てることを目的に開催しました。

・研修日程 令和6年2月13日(火)

・受講者数 43名

(6) 認知症介護実践者等養成事業の行政担当者との情報交換会の開催（※オンライン）

指導者研修等の受講者確保対策の一環として、応募の窓口となる各府県市の行政担

当者等に対して事業の説明(PR)をするとともに、情報交換を行いました。

- ・開催日 令和5年4月26日(水)
- ・参加者数 46名(行政23名、実施団体23名)

3. 認知症介護に関する啓発活動、情報発信、連携活動

(1) 講演会・セミナー開催による啓発活動

① 認知症フォーラム(第18回)

介護関係者をはじめ広く一般の方々にも「認知症」について知っていただくためのセミナーを開催し、本年はより現場でのケアに係るテーマ設定としました。

- ・開催日 令和6年3月14日(木) ウィンクあいち
「認知症の人を支えるために ～リハビリテーション/摂食嚥下/排泄～」
- ・参加者数 240名

② 認知症ケアセミナー(第21回) ※「1. 研究事業(3)」記載のとおり

(2) DCネット等による情報発信

3センター合同で運営するDCネット及びコールセンターホームページを通じて、認知症介護に関する情報発信に取り組みました。

- ・WEBサイト「認知症介護情報ネットワーク(DCネット)」の活用
- ・若年性認知症全国支援センター(コールセンター)ホームページの活用

(3) 認知症介護指導者大府ネットワーク等との連携活動

大府センターの認知症介護指導者養成研修修了生で組織する「大府ネットワーク」、及び認知症ケアマッピング(DCM)法研修修了生(ユーザー)で組織する「日本パーソン・センタード・ケア・DCMネットワーク」の開催する会議・研修会への参加、広報誌への寄稿を通して、当センターの研修事業等に関する情報発信に取り組みました。

① 大府ネットワーク(指導者養成研修修了生…令和5年度末967名)

- ・総会・研修会等への参加、広報誌発行協力

② 日本パーソン・センタード・ケア・DCMネットワーク(DCM研修修了生

- …基礎ユーザー・上級ユーザーは令和5年度末で1,969名)
- ・研修会等への参加、広報誌発行協力

4. 若年性認知症に対する支援事業

(1) 全国若年性認知症支援センターの運営(厚生労働省補助事業)

1) 若年性認知症コールセンターの運営

若年性認知症の人やその家族等に対する電話・メール相談支援及び相談内容に応じ適切な関係機関への連絡調整を実施しました。

また、勤務時間終了後の相談にも対応するため、毎週水曜日の相談時間を19時まで延長して対応しました。

- ・相談件数 950件(対前年度 △211件)

2) 若年性認知症支援コーディネーター等に対する支援

各都道府県・指定都市の施策担当者と若年性認知症支援コーディネーター及び相談窓口の職員等に対して、相談支援を実施するとともに、研修・情報交換会等の開催、情報共有システム運用による支援を実施しました。

① 相談支援

- ・実施件数 318 件（対前年度 △17 件）

② 支援コーディネーター研修 ※オンラインで開催

ア. 初任者研修

- ・研修日程 令和5年7月6日(木)～令和5年7月7日(金)
- ・受講者数 82名（行政：24名、支援コーディネーター：58名）

イ. フォローアップ研修

- ・研修日程 令和5年10月18日(水)～令和5年10月19日(木)
- ・受講者数 80名（行政：22名、支援コーディネーター：58名）

③ 情報共有システムの運用

支援コーディネーターの業務の効率化・負担軽減、活動状況の可視化、支援事例を蓄積し活用、その他各種情報の共有を図ることを目的とした情報共有システムを引き続き運用するとともに、関係者に対する説明会を開催しました。

ア. 相談記録システム（電子カルテ方式の共通シートを使用しデータベース入力）

- ・令和5年度報告延べ件数 5,735 件

イ. 支援事例共有システム（Web サーバーを使用し、支援事例を蓄積・共有）

- ・累計事例登録数 71 件（+8 件）

ウ. 掲示板機能（研修会・資料等の情報について掲示板機能を活用して共有）

- ・年度末現在の利用者数 176 名（コーディネーター119名、行政担当 57名）

※システム説明会の開催

- ・新規対象 4月25日(火)、継続者 5月26日(金)、5月30日(火)
- ・参加者数 51 名（行政：24 名、コーディネーター：27 名）

④ ネットワークづくり

上記の掲示板の活用のほか、広報誌の発行により、支援コーディネーターの活動に資する情報を提供するとともに、行政担当者や支援コーディネーターとの意見交換会を開催し、併せて広報誌を発行することにより情報共有・連携が図られるよう支援しました。

ア. 行政担当者の意見交換会開催

- ・令和5年5月18日(木)（※オンライン） ※参加者数 63 名

イ. 支援コーディネーター情報交換会開催

- ・第1回 令和5年 7月28日(金) ※集合 ※参加者数 21 名
- ・第2回 令和5年 12月19日(火)（※オンライン） ※参加者数 48 名

ウ. 広報誌「全国若年性認知症支援センターだより」：年4回発行

3) 若年性認知症の普及・啓発等の推進

手引き・リーフレット等の配布やセミナー等の機会を捉えて啓発を推進しました。

(2) 愛知県若年性認知症総合支援センターの運営（愛知県委託事業）

愛知県の委託事業として、愛知県内に居住または就業する若年性認知症の人やその家族等の支援を行うとともに、若年性認知症自立支援ネットワーク事業を推進しました。

1) 相談支援

若年性認知症の人やその家族等に対する電話・来所・訪問での相談支援及び相談内容に応じた適切な関係機関への連絡調整。

- ・実施件数 1,200件（対前年度 +81件）

2) 若年性認知症自立支援ネットワーク事業

① 会議等の開催（※オンライン）

医療、介護、福祉、雇用等の関係者による若年性認知症自立支援ネットワーク会議、早期相談支援に係る連携体制構築に向けたワーキングを開催しました。

ア. 会議を年2回開催

- ・令和5年7月21日(金)、令和6年2月28日(水)に開催

イ. ワーキングを年1回開催

- ・令和5年9月25日(月)に開催

② 研修の開催

支援担当者等関係者に対して若年性認知症自立支援ネットワーク研修を開催し、若年性認知症対応力の向上を図りました。（※オンライン）

- ・令和5年10月31日(火)
- ・対象：市町村の認知症施策担当者・地域包括支援センター職員等
- ・午前：初任者研修 176名参加、午後：フォローアップ研修 147名参加

③ 一般向け啓発セミナーの開催

一般啓発セミナーとして、岡崎市民病院と共催で現地にて開催しました。

- ・令和6年1月13日(土) ※岡崎市 甲山会館
- ・参加者数 73名

④ 実態把握

今後の相談支援に活かすとともに、支援関係者等の研修や県民への啓発に反映させていくため、現場にて若年性認知症の人のニーズ等を把握しました。

- ・七宝町ほか複数の家族交流会に支援コーディネーターが参加し、本人・家族から意見や要望を聴取。

3) あいちオレンジタウン構想に係る事業

愛知県が推進する「あいちオレンジタウン構想」の第二期アクションプランの一つとして、若年性認知症の人への早期相談支援体制づくりを推進しました。

- ・県内の認知症疾患医療センターと支援コーディネーターとの連携について、自立支援ネットワーク会議及びワーキングで検討し、連絡体制を構築。
- ・併せて、情報共有のための連携シートを作成し使用を開始。

5. 愛知県の身体拘束廃止推進事業（権利擁護推進員養成研修）

愛知県からの委託を受け、介護施設における身体拘束廃止の取り組みをより効果的に推進させるため、施設内で指導的立場にある職員を対象に講義・演習・自施設実習を通じて、高齢者虐待防止法の趣旨の理解及び利用者の権利擁護の視点に立った介護に関する実践的手法を習得させ、介護現場での権利擁護のための取り組みを指導する人材を養成しました。

- ・日 程 令和5年9月19日(火)、26日(火)、10月30日(月)に開催
- ・場 所 大府市役所 多目的ホール
- ・受講者数 58名（施設長等29名、介護主任等29名）

3. サンサン大府拠点

I. 施設 の 状 況

1 指定障害福祉サービス開始日：平成20年4月1日

平成18年4月1日施行の障害者自立支援法（現在は障害者総合支援法に改正）に基づく新体系移行に伴い、就労移行支援（一般型）事業、就労継続支援（B型）事業のサービスを開始しています。

平成28年3月31日をもって就労移行支援（一般型）事業を廃止しました。

2 指定障害福祉サービス(事業)名及び利用定員

- ・就労継続支援（B型）事業〔利用定員：39人〕

一般就労が困難な方等へ就労の機会を提供するとともに、生産活動を通じて社会的自立に向けた、知識や能力の向上に必要な福祉サービスを提供します。

3 利用対象者（18歳以上）

- ・身体障がい者(肢体不自由、視覚、聴覚・言語、内部障がい)
- ・知的障がい者
- ・精神障がい者（発達障がい者を含む）
- ・難病等対象者

4 サービス提供職員の配置〔1日当たりの平均実利用者数 35.2名〕

※ 常勤換算基準数は、実利用者：職業指導員&生活支援員 = 7.5 : 1
(令和6年3月末日現在)

事業所名 職 種	職 員 数 (兼務は主とし た職種を優先 に表記)	【 常 勤 換 算 数 】					
		専 従		兼 務		計	基準数
		職員	非常勤	職員	非常勤		
施設長 管理者	1	0.5 (職業指導員兼務)					
サービス管理責任者	1	1.0	—	—	—	1.0	1.0
職業指導員	5	1.0	2.3	0.5		3.8	4.7
生活支援員	6	2.0	2.4			4.4	
目標工賃達成指導員	1	1.0		—	—	1.0	1.0
事務員	1	—	—	—	—	—	—
送迎運転手	1	—	—	—	—	—	—

5 年間行事

月	行 事 等
4	お花見（於大公園）
5	—
6	—
7	—
8	（ルミナス夏祭りバザー出店中止）
9	大府市福祉・健康フェア、名フィル福祉コンサート
10	吉田文化ふれあい祭りパネル展示、（イオン東浦イエローレシートキャンペーン中止）
11	防災訓練（2回）、（障害者就職面接会 開催されたが当施設から参加者ゼロ）
12	年末食事会（知多電力館）
1	おおぶノウフクマルシェ
2	大府市社会福祉協議会ボランティアフェスティバル
3	—

6 各種会議

- ・工賃評価委員会（毎月実施）… 利用者工賃の評価、見直し 他。
- ・指 導 委 員 会（ 〃 ）… 利用者の援助、支援内容の検討 他。
- ・職 員 会 議（ 〃 ）… 施設運営と経営改善の協議 他。
- ・身体拘束廃止及び虐待防止委員会を3回実施しました。

Ⅱ. 利 用 者 の 状 況

1 定員及び現員〔登録者〕（令和6年3月末日現在）

定 員	現 員〔登録者〕
39	42

2-1 月別現員数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
初日の現員数	46	46	46	46	45	44	44	43	43	44	43	42
入所(通所)数	1								1			
退 所 数	1			1	1		1			1	1	
月末の現員数	46	46	46	45	44	44	43	43	44	43	42	42

- ・退所者6名（一般就労1名、他施設を利用2名、体調不良2名、ご逝去1名）

2-2 相談・見学、実習者の延べ人数

※ 相談・実習の（ ）の数値は利用に結びついた方

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談・見学	3	5	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	11
実習	0	0	0	0	0	0	2(1)	0	0	0	0	0	2(1)

- ・5月は、もちのき特別支援学校の高等部の親御さんがグループで見学に来ました。
(4月の新規利用(6年ぶりに復帰)の方は、令和5年3月に実習しました。)

3 障害者手帳の内訳

(1) - 1 身体障害者手帳

障害等級	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
現員〔登録者〕	7	7(3)	5(1)	2	1	1	23(4)

- ・()の数値は知的障がいがある方

(1) - 2 上記の内訳

障害別	肢体	視覚	聴覚	内部	計
現員〔登録者〕	17	4	1	1	23

(2) 療育手帳

障害等級	A	B	C	計
現員〔登録者〕	6	9(1)	7(3)	22(4)

- ・()の数値は身体障がいがある方

(3) 精神障害者保健福祉手帳

障害等級	1級	2級	3級	計
現員〔登録者〕	0	1	0	1

(4) 難病

脊髄小脳変性症、網膜色素変性症、筋緊張性ジストロフィー(2名)、パーキンソン病の計5名。

(身体障がい4名、身体障がいと知的障がいの重複1名)

4 性別・年齢

性別	区分	年 代 別							計(比率)
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70~	
現員 〔登録者〕	男	0	5	5	5	9	4	1	29(69%)
	女	0	4	2	0	3	2	2	13(31%)
	計	0	9	7	5	12	6	3	42(100%)

5 市町別

市 町	人 数	市 町	人 数
大府市	21	東浦町	8
知多市	7	阿久比町	2
東海市	3		
知立市	1		
常滑市	0	計	42

6 通所方法

通 所 方 法	人 数
送迎車利用(市外)	10
〃 (大府駅西)	3
〃 (共和)	3
〃 (長草)	0
〃 (市内自宅、その他)	7
自家用車	1
自転車・徒歩・循環バス	10
家族送迎	8
福祉有償運送(他施設)	0
計	42

7 利用の経路

経 路	人 数
仁至会授産所から継続	2
特別支援学校、専門学校	13
障がい者相談支援センター	15
各市町	5
名古屋市リハビリテーションセンター	0
障害者生活支援センター(らいふ)	2
障害者就業・生活支援センター(ワーク)	0
他事業所から引き継ぎ	1
本人・家族、その他(東和荘、ルミス、知人紹介他)	4
計	42

8 一般就労

	事 務 系	軽 作 業	その他(在宅含む)	計
令和元年度	0	0	0	0
2	0	2	1	3
3	0	1	0	1
4	0	0	0	0
5	1	0	0	1
計	1	3	1	5

・令和5年度の一般就労は1名でした(会計事務所補助員)。

9 就労活動種目

項目	品目・製品	摘要	売上	対前年度比
印刷	一般印刷、封筒印刷、名刺・ハガキ・カード印刷、封入～発送作業他	官公庁、民間企業、各種団体、個人 他	10,644 (千円)	99%
下請作業	自動車部品等のシール貼り及び組み付け、ゴムはめ、紙折り、花壇整備 他	大府市内外各事業所、(株)げんきの郷 他	4,854 (千円)	108%
自主製品	ダンボールコンポスト、ペットボトルオープナー 他	当施設、(株)げんきの郷 売店 他で販売	2,452 (千円)	77%
委託販売	無添加石けん、大府市指定ごみ袋	(ごみ袋は当施設のみで販売)	1,277 (千円)	56%
その他	ルミナス ベッドメイク 他	老人保健施設 他	167 (千円)	16%
計			19,394 (千円)	89%

- ・平成25年4月1日「障害者優先調達推進法」が施行されています。行政機関等（学校関係含む）からの契約件数は68件、契約金額は約334万円。対前年度比で件数は6件の増（10%増）、金額は約196万円の減（37%減）でした。（活動種目全体の約17%の売上です。）
- ・自主製品及び委託販売は、①大府市いきいき幸齢者フェスタ（昨年度までは敬老会）の記念品の取り扱いや対象年齢が変更されたこと、②(株)げんきの郷 すくすくヶ丘の工事の影響で、テナント販売ができなかったこと 等で売り上げは減少しました。
- ・その他の活動は、共和駅前輪場の自転車整理作業がなくなり、売り上げは減少しました。
- ・令和4年度から大府市の指定登録を受けて、大府市指定ごみ袋の販売を開始しています。熨斗付きの記念品等に加工して販売もしました。

10 利用率

※ 定員39名に対する1日当たりの利用率

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
令和3年度	95.9	101.0	100.3	97.9	93.6	98.3	103.1	103.1	96.2	96.2	98.5	99.2	98.8%
令和4年度	96.9	96.2	97.4	90.5	88.7	95.4	100.3	98.2	99.5	94.9	97.7	94.9	95.9%
令和5年度	92.6	96.2	95.9	91.8	84.4	87.4	86.7	91.0	92.8	84.6	83.3	85.9	89.4%

- ・8月以降、長期入院や自宅療養9名、コロナ感染者5名、インフル感染者5名いたため、利用率が下がりました。

1 1 利用者工賃向上計画（平均月額）

	令和2年度	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
愛知県	16,822	—	17,653	—	18,174	—	集計中
当施設	15,376	15,378	15,214	15,384	15,719	15,726	15,732
(参考：全国)	15,776	—	16,507	—	17,031	—	集計中

- ・ 最高月額：137,640円、最低月額：250円（特別手当を含む）

Ⅲ. その他

1 体験学習等の受け入れ

- ・ もちのき特別支援学校（中等部） 就労チャレンジ体験（7月 延べ10名）
- ・ " " " "（12月 延べ10名）
- ・ " "（高等部） 就労体験（6月 延べ8名）

2 施設外作業、施設外支援

- ・ 施設外作業【継続】
 - ① 株式会社げんきの郷にて、花壇の草取り・水やり等の作業
（平成24年6月1日から取り組み開始。令和5年度は98日間実施）
 - ② げんきの郷に出荷している個人事業者の鉢植えの水やり等の作業
（平成30年2月8日から取り組み開始。令和5年度は7日間実施）
 - ③ 認知症介護研究・研修大府センターの花壇の草取り・水やり等の作業
（平成30年6月1日から取り組み開始。令和5年度は65日間実施）
 - ④ ルミナス大府（老健）のベッドメイク
（令和2年2月1日から取り組み開始。令和5年度は142日間実施）

3 新型コロナウイルス関連

- ・ 国及び愛知県の補助を受けて、職員を対象に4月から6月まで月2回程度でPCR検査を実施しました（検査での陽性者は0名）。
7月から10月まで週2回程度で抗原検査を実施しました（検査での陽性者は0名）。

4 就労移行支援体制加算

- ・ 令和3年度に、一般企業へ就職した利用者が1名いました。その結果として、令和5年度（翌々年度）に就労移行支援体制加算1名分（1日28単位）を取得することができました。

5 処遇改善加算、特定処遇改善加算、ベースアップ等支援加算

- ・ 令和4年2月から継続して、上記3つの加算を申請し、職員の賃金改善に取り組みました。

6 サマーボランティア

- ・大府市社会福祉協議会を通じて、桃陵高校1年生の生徒さん1名に利用者支援のお手伝いをしていただきました。(8月2日、3日)

7 愛知県共同募金会の配分金の活用

- ・印刷事業に使用するパソコン(デスクトップ1台、ノート2台)と名刺カッターを買い替えることができました。

8 LED照明への切り替え

- ・省エネ化に向けて電力量の削減を図るため、全ての照明をLEDに切り替えました。